

第3編



地域の 施策展開

地域の施策展開

埼玉県には、首都に隣接し人口の集中している地域や、郊外に市街地が点在している地域もあれば、人口の減少が既に始まっている地域や自然豊かな中山間地域*もあります。

これが日本の縮図とも呼ばれる本県の姿であり、地域の多彩さが本県の活力を生み出していると言えます。

今後、人口減少、異次元の高齢化が進む中、地域の人口動態をはじめとする社会経済の動向を踏まえた施策展開を行うことで、本計画に掲げる将来像や分野別の各施策をより一層効果的に実現していくことが可能になります。

また、各地域の市町村などが、産業、自然、文化など特徴的な資源や環境を生かし、創意工夫して個性豊かで多彩な地域づくりに取り組むことが重要です。

このため、各地域の特性や現状を踏まえ、地域ごとに異なる課題に対して第2編の分野別施策に示した取組を再編し、「地域づくりの方向性」や「主な取組」として示します。

地域区分の考え方

(1) 県南・圏央道・県北ゾーン

本県では、都心からの距離に応じて都市化の状況や首都の動向の影響など社会経済の状況が特徴的に異なる傾向があります。このため、県域を都心からの概ねの距離に基づき大きく県南・圏央道・県北の3つのゾーンに区分し、特性や課題を整理しました。

① 県南ゾーン (都心から概ね10～30km圏)

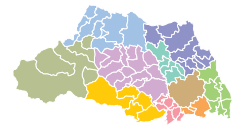
東京の影響を受けやすく、早くから都市化が進行した地域

② 圏央道ゾーン (都心から概ね30～60km圏)

都市と田園が共存しており、圏央道の整備により一層の発展が期待されている地域

③ 県北ゾーン (都心から概ね60km以遠)

うるおいのある豊かな自然環境や歴史・伝統などの個性的な地域資源が多く生かされている地域



(2) 10地域区分

地域の特性と課題を踏まえながら、市町村などと連携した地域づくりを推進するための単位として、県民の生活圏としての一体性など広域的なまとまりに基づき、主に次の観点から10の地域に区分しました。

① 日常生活圏のまとまり

地域を単位として、施策を円滑にまとまりのある形で推進するためには、県民の生活圏としての一体性があることが大切です。このため、通勤・通学や日常の買物、通院など、生活圏としての一体性がある市町村を同じ地域に区分しました。

② 鉄道・道路の交通軸

経済活動などは鉄道・道路などに沿って活発化し、また鉄道沿線などは県民の持つ地域の一体意識にも影響するため、交通軸に配慮した地域区分としました。

なお、本県は東京から放射状に延びる鉄道・道路に沿って発展してきたため、既存の人の流れは東京からの放射方向が大きくなっています。圏央道などの整備により今後は横方向の流れも活性化が期待されるため、横方向の交通軸については3つのゾーン区分において考慮しています。

③ 行政機関のまとまり

行政施策の推進やこれまでの地域づくりの成果を継承するため、地域機関などの所管区域や市町村の広域連携の状況などを踏まえた地域区分としています。

10地域の現状や課題を踏まえ、分野別施策に掲げる全県的に展開される取組のうち、特にその地域で取り組むべきものを整理しました。

3ゾーンと10地域区分



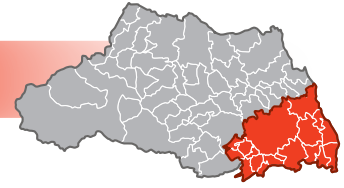
10 地域区分の構成市町村

地域区分		構成市町村
	南 部	川口市、蕨市、戸田市
	南西部	朝霞市、志木市、和光市、新座市、富士見市、ふじみ野市、三芳町
	東 部	春日部市、草加市、越谷市、八潮市、三郷市、吉川市、松伏町
	さいたま	さいたま市
	県 央	鴻巣市、上尾市、桶川市、北本市、伊奈町
	川越比企	川越市、東松山市、坂戸市、鶴ヶ島市、毛呂山町、越生町、滑川町、嵐山町、小川町、川島町、吉見町、鳩山町、ときがわ町、東秩父村
	西 部	所沢市、飯能市、狭山市、入間市、日高市
	利 根	行田市、加須市、羽生市、久喜市、蓮田市、幸手市、白岡市、宮代町、杉戸町
	北 部	熊谷市、本庄市、深谷市、美里町、神川町、上里町、寄居町
	秩 父	秩父市、横瀬町、皆野町、長瀨町、小鹿野町



3ゾーンの特性と課題

(1) 県南ゾーン



県南ゾーンの特性

都心から概ね10~30kmの範囲内にあり、東京の影響を受けやすい地域です。

早くから都市化が進み、都内への通勤・通学の交通利便性が高いことから転入超過が続き、依然として人口の増加傾向が続いています。

住民の移動が活発で転入・転出者の割合が高く、借家も多くなっています。

20代~30代の若年世代が、就職・結婚などを機に都内や県内他地域から多く転入しています。

本県の出生数のうち、6割程度を県南ゾーンが占めています。三世帯同居世帯が少ない傾向にあるため、保育に対する需要が非常に高く、待機児童数の多い市は県南ゾーンに集中しています。

団塊世代が75歳以上となる平成37年(2025年)には後期高齢者が増加しますが、その約半数が県南ゾーンに集中し、急速に高齢化が進み、医療・介護需要が伸びると予想されます。



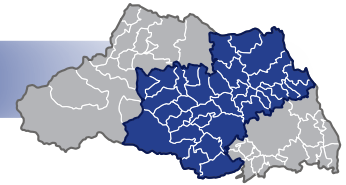
県南ゾーンの課題

市街地が連たんし、人口密度の高い地区が多いため、大規模な地震や水害に対する備えを高めておく必要があります。

また、待機児童対策を中心として保育サービスの充実など子育て支援策を強化し、出産や自宅購入などを機に若年世代が流出しないよう、子育て世代に選ばれるまちづくりを進めることが重要です。

その一方で急速な高齢化の進展に対応するため、地域などにおける高齢者の活躍の推進や健康づくりの取組、包括的な医療・介護体制の構築が必要です。

(2) 圏央道ゾーン



圏央道ゾーンの特性

都心から概ね30～60km圏に位置し、東京の人口吸収力が落ちた1980年代後半から1990年代に人口が増加し、郊外の鉄道沿線の都市を核として定住が進みました。しかし、その後は転入超過が減ってきており、市町村によっては人口減少の傾向を示しています。また、都市と田園が共存した環境がつくられています。

20代で大幅な転出超過となり、その後40代にかけてわずかに転入超過になります。また、以前に比べると、子育て世代の転入は大きく減少しています。

一時期、急速に人口が増加した郊外型の住宅地において後期高齢者が増加すると見込まれます。その一方で、婚姻数や出生数の落ち込みも見られ、若年世代は鉄道沿線の利便性の高い地域に、就職や結婚を機に転出する傾向にあります。

長年の懸案であった圏央道の県内区間の整備が完了し、インターチェンジ周辺地域などを中心に企業立地が進んでいます。近年の本県への企業立地件数の約6割が圏央道ゾーンに集中しています。今後も圏央道が常磐道などと接続するほか、成田空港などにも直結することから、企業立地における優位性が更に高まると予想されます。

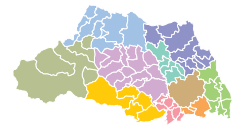


圏央道ゾーンの課題

若年世代の流出を防ぎ、子育て世代の定住を図る必要があります。都市と田園が共存した環境を生かし、都心にはない生活環境づくりを進めることが重要です。

また、高齢者の増加に対応したまちづくりを進めることも重要です。

その一方で、圏央道の開通により地域の発展の可能性が拡大していることから、ゾーンを横断する方向での連携や人とモノの移動を活性化するとともに、県南ゾーンへのアクセス利便性を高めていく必要があります。



(3) 県北ゾーン



県北ゾーンの特性

都心から概ね60km以遠に位置し、東京から一定の距離があることから、豊かな自然環境や地域の歴史・文化が生かされている地域です。

進学や就職を機に若年世代が転出し、人口減少が続いています。

既に超高齢社会に入っており、今後更に高齢化が進む中で地域の活力を維持することが重要です。

元気な高齢者が、サポートを必要とする高齢者を支える「地域支え合いの仕組み」は、秩父地域から始まりました。コミュニティ全体で高齢者の日常生活を支える仕組みを充実していく必要があります。

また、日常生活の主な交通手段は、県南ゾーンが主に鉄道であるのに対し、県北ゾーンでは自動車の割合が高くなっています。高齢化の進行に伴い、自動車運転が困難な高齢者が増加すると見込まれます。

産業振興とともに古くからの歴史や文化が維持され、祭りや、観光名所などに恵まれています。



県北ゾーンの課題

人口減少が進む中で、高速道路や主要道路の沿線を中心に企業立地、産業振興を図る必要があります。

また、コミュニティ全体で高齢者の生活を支える仕組みを充実するとともに、自動車が移動手段の中心となっている中で生活の足の確保も重要となります。

地域資源を生かしたまちづくりを進め、観光客など交流人口による地域の活性化を図る必要があります。

10地域区分

南部地域

川口市、蕨市、戸田市

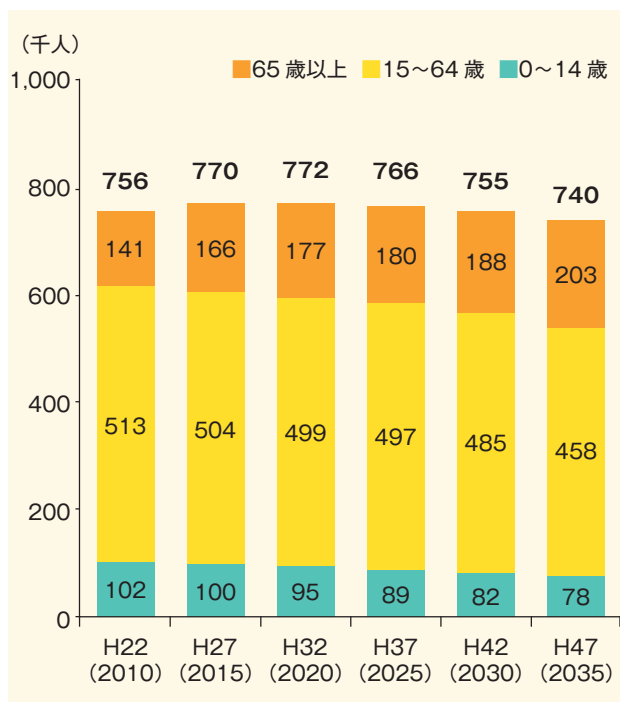
人口(県人口に占める割合)	786,568人 (10.8%)
面積(県面積に占める割合)	85.25km ² (2.2%)
人口密度	9,226.6人 / km ²

〔国勢調査(平成27年)〕(総務省)



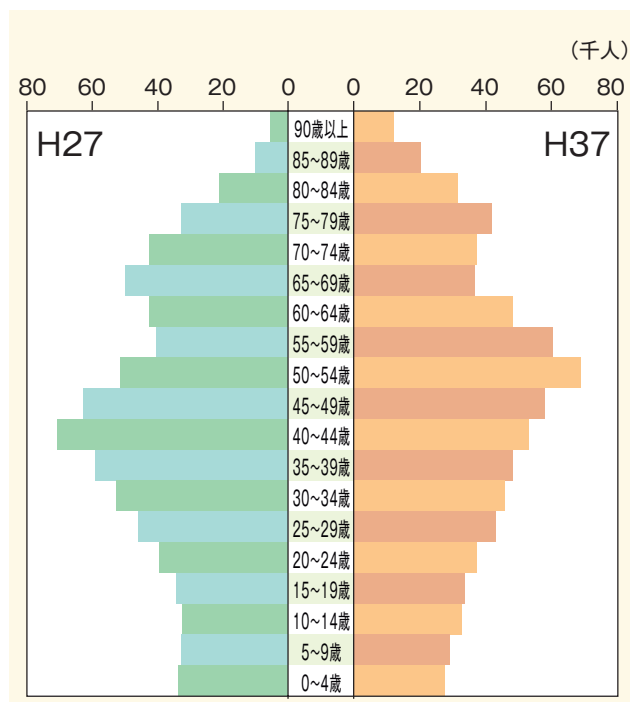
彩湖・道満グリーンパーク(戸田市)

将来人口推計グラフ



「日本の地域別将来推計人口」(国立社会保障・人口問題研究所)

人口ピラミッドグラフ



「日本の地域別将来推計人口」(国立社会保障・人口問題研究所)



地域の概要

荒川を挟んで東京都と接する県の南端にあり、東京都心から10～20km圏に位置しています。都県境の荒川をはじめ芝川などが流れ、地域の大半を占める荒川低地に市街地が広がっています。

古くは中山道や日光御成街道の宿場が置かれたほか、荒川には戸田の渡しも設けられ、交通の要衝として栄えました。江戸の消費を支える鋳物や植木など多様な産業が発達し、現在も重要な地場産業として生産が続いています。今日では、鋳物業に端を発した機械金属工業のほか、印刷、食品製造業、物流拠点など多彩な事業所が立地しています。

JR京浜東北線・武蔵野線・埼京線、埼玉高速鉄道線が地域内を走り、道路も南北方向に走る首都高速道路（首都高）川口線、東北道、国道17号・122号、東西方向の外環道、国道298号が広域幹線道路網を形成しています。

東京都に隣接し、通勤・通学に便利なことから、地域外からの転入者も多くなっています。近年では工場跡地などを活用したマンションや大型商業施設などの建設も進んでいます。

急激に都市化が進みましたが、荒川や芝川などの河川空間、屋敷林や社寺林、植木畑などのゆとりある緑地空間が残っています。



鋳物工場（川口市）

地域の現状と課題

人口は78万7千人（平成27年（2015年））で、県人口の10.8%を占めています。都内への通勤・通学などに便利なことから、若年世代を中心に転入超過となっており、人口増加率（平成22年（2010年）～平成27年（2015年））は4.0%で、県内で最も高くなっています。人口に占める転入者・転出者の割合が県内でも高く、地域への愛着醸成や地域コミュニティの活性化が重要となっています。

合計特殊出生率は1.27（平成26年（2014年））で、県内ではほぼ中位の水準にありますが、子育て世代の30代の女性の就業率が他地域に比べ低くなっており、子育て支援とともに再就職などへの支援が求められます。

高齢化率は18.6%（平成22年（2010年））で、県内で最も低くなっていますが、平成37年（2025年）までの10年間に75歳以上の後期高齢者は3万人程度増加する見込みです。

早くから産業都市として発展した地域で、金属・機械などの製造業や印刷関連など多様な企業が集積しています。地域経済の活性化を図るため、中小企業の経営・技術力の強化、事業承継、生産性向上などを支援し、競争力を高めていくことが求められます。

低地に密集した市街地が広がるこの地域では、交通渋滞対策の推進、浸水被害の軽減の取組とともに、大地震発生時の火災や建物倒壊など災害に備えたまちづくりが課題となっています。

地域づくりの方向性

若年世代の転入及び定住を促進するため、待機児童の解消に向けた保育所などの整備促進とともに、子育てしやすい住環境の整備などを重点的に進めます。また、暮らしやすく魅力あるまちづくり、コミュニティの活性化などにより、地域に対する愛着の醸成を図ります。

今後、急速に進む高齢化に対応するため、地域の特性を生かした健康づくりの取組や生活習慣病*予防対策を推進し、生涯にわたる健康の確保を図ります。

また、高齢者が住み慣れた地域で安心して暮らせるよう、医療、介護、介護予防、生活支援、住まいを切れ目なく提供できる体制づくりのため、モデル事業を実施し、地域包括ケアシステム*の構築を支援します。

知的障害特別支援学校に通う児童生徒は、南部地域を中心に顕著な増加傾向にあり、過密解消に向けた検討を進める必要があります。

首都直下地震や集中豪雨などの災害に備え、過密な市街地における耐震化などの防災対策や治水対策などを進めるとともに、企業、NPOなど多様な主体との連携による自助・共助の取組を強化します。

中小企業の競争力を高めるため、産業技術総合センターによる技術支援、SKIPシティ*を活用した映像関連産業の振興を図るとともに、将来のものづくりを担う人材育成や技能の継承を進めます。

伝統と技術力を背景とした花植木の生産振興と、都市地域にある農業の強みを生かし、「ぼうふう」などの特産農産物の生産振興を進めるなど、農業の収益性を高めます。

また、食料供給のほか、防災や景観形成機能など都市農業が有する多様な役割を踏まえ、農業体験を通じた地域住民との交流や地産地消の推進などにより、都市農業の振興を図ります。

交通渋滞のない円滑で安全な自動車交通の実現に向けて、交差点などの渋滞対策、歩道や自転車通行環境の整備とともに、高齢者や自転車などの安全に配慮した交通安全対策を推進します。

荒川河川敷の広大な緑地を活用し、人々が交流できる憩いの場を備えた川や緑のうるおいを生かした魅力あふれる都市空間をつくります。また、市や県民などと連携し、水辺空間の保全・活用に取り組みます。



荒川から川口市の眺め



戸田市立児童センターこどもの国(戸田市)



主な施設・交通網と基盤整備の状況

- 凡例**
- 自動車専用道路
 - 国道
 - 鉄道
 - 工業団地
 - 主な取組に記載された主要施設
 - 土地区画整理事業施行中地区



主な取組

1. 未来への希望を実現する分野

■子供を安心して生み育てる希望をかなえる

- 保育所、認定こども園*、企業内保育所などの整備促進
- 放課後児童クラブ*の支援
- 子育てしやすい住宅の普及促進

■誰もが健康で安心して暮らせる社会をつくる

- 急速な高齢化に備えた健康長寿埼玉プロジェクトなど地域の実情に応じた健康づくりの取組支援
- 高齢者の急増に備えた医療・介護連携の促進などによる地域包括ケアシステム*の構築支援、高齢者向けの住まいなどの確保支援

2. 生活の安心を高める分野

■危機や災害に備える

- 首都直下地震に備えた道路啓開体制*の強化
- 河川改修や調節池の整備
- ゲリラ豪雨対策の実施
- 土砂災害警戒区域における警戒避難体制の構築

3. 人財の活躍を支える分野

■一人一人が人財として輝ける子供を育てる

- 特別支援学校の過密解消に向けた「多様な学びの場*」の充実

■多彩な人財が活躍できる社会をつくる

- 就職を目指す若者、高齢者、女性及び障害者に対するきめ細かい支援
- 発達障害者就労支援センター（ジョブセンター川口）による就労支援



川口緑化センター 樹里安 (川口市)



SKIPシティ・彩の国ビジュアルプラザ (川口市)



4. 成長の活力をつくる分野

■埼玉の成長を生み出す産業を振興する

- 先端産業分野の研究開発支援
- SKIPシティ*を活用した映像関連産業の振興
- 製造業などにおけるICT*の活用支援
- 産学官連携などによる新製品・新技術の開発支援、ベンチャー企業の育成

■埼玉の農林業の成長産業化を支援する

- 伝統ある植木、花きなどの緑化産業の育成支援
- 特産農産物の生産振興
- 地域の特徴を生かした都市農業の振興



わらびりんご(蕨市)

5. 豊かな環境をつくる分野

■豊かな自然と共生する社会をつくる

- 見沼田圃^{たんぼ}の保全・活用・創造
- 市などと連携した水辺空間の利活用の促進

6. 魅力と誇りを高める分野

■県民が誇れる埼玉の魅力を高める

- 国際Dシネマ映画祭など国際的なイベントの充実
- まちの価値を高める土地区画整理事業*や市街地再開発事業*の促進

■支え合いで魅力ある地域社会をつくる

- コミュニティ活動の促進、定住促進の取組強化
- 高齢者の社会参加の支援
- 外国人住民の地域活動への参加促進



わらび機まつり(蕨市)

南西部地域

朝霞市、志木市、和光市、新座市、富士見市、ふじみ野市、三芳町

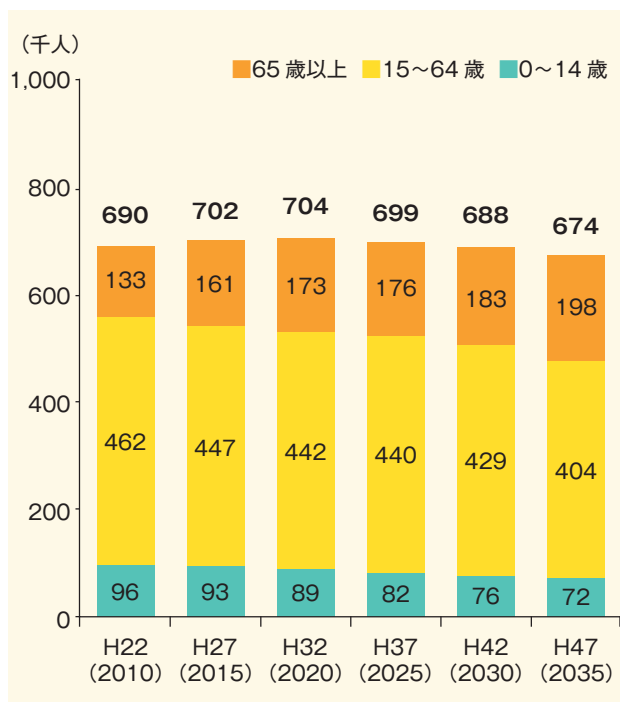
人口(県人口に占める割合)	709,206人 (9.8%)
面積(県面積に占める割合)	110.95km ² (2.9%)
人口密度	6,392.1人 / km ²

〔国勢調査(平成27年)〕(総務省)



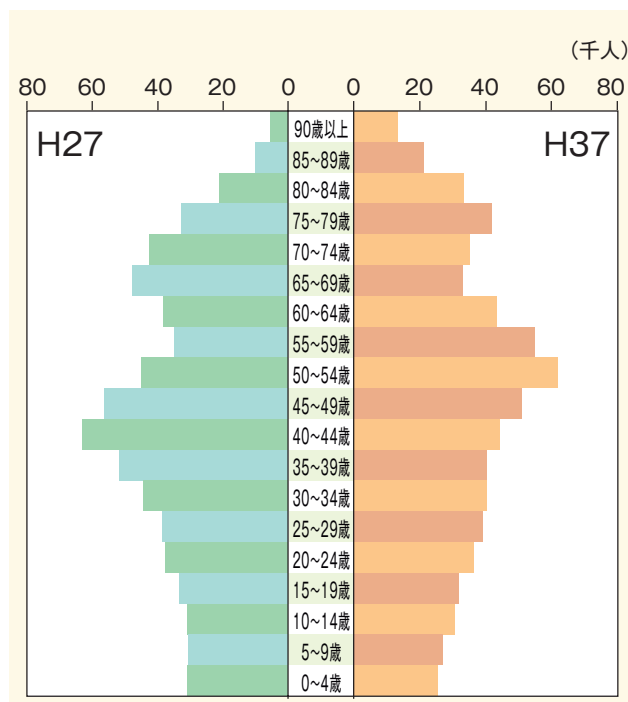
三富新田(三芳町)

将来人口推計グラフ



「日本の地域別将来推計人口」(国立社会保障・人口問題研究所)

人口ピラミッドグラフ



「日本の地域別将来推計人口」(国立社会保障・人口問題研究所)



地域の概要

東京都に隣接し、東京都心から20～30km圏に位置しています。

地域の大半は、武蔵野台地などの台地上にあります。東側の荒川沿いには低地が広がり、荒川、新河岸川など多くの河川が流れています。

古くは、新河岸川の舟運や川越街道の宿場が栄え、また、江戸時代に開拓された短冊状の地割が特徴の三富新田をはじめとする武蔵野台地の農地開発も進み、肥沃な農業地帯として発展しました。今日も武蔵野の面影を残す平林寺の豊かな緑地など、自然と調和した優れた景観が数多く残されています。

大正以降、鉄道の開通とともに駅を中心に新たな市街地が形成されました。高度経済成長期には大規模な住宅団地の建設や宅地化が進み、人口が急増しました。理化学研究所や大手自動車メーカーなどの研究開発機関、国の機関、大学などが多く立地しています。

外環道や関越道、国道254号・463号などが広域幹線道路網を形成しています。JR武蔵野線、東武東上線が地域の東西南北を結び、平成25年（2013年）には東武東上線と東急東横線、横浜高速鉄道みなとみらい線の東京メトロ副都心線を介した相互直通運転が実現しました。



黒目川（朝霞市）



平地林（三芳町）

地域の現状と課題

人口は70万9千人（平成27年（2015年））で、県人口の9.8%を占めています。都内への通勤・通学などに便利なことから、人口増加率（平成22年（2010年）～平成27年（2015年））は2.8%となっています。

人口に占める転入者・転出者の割合が高く、特に20代、30代が多くを占めています。若年世代の定着を図るため、地域への愛着醸成や地域コミュニティの活性化が課題となっています。合計特殊出生率は1.37（平成26年（2014年））で、県内で最も高くなっています。

高齢化率は19.2%（平成22年（2010年））で、県平均（20.4%）より低いものの、今後は急速な高齢者の増加が予想されます。

高度な研究開発機関や大学が立地している利点を生かし、産学官連携による成長産業の育成や新たな製品・技術の開発などを促進し、その効果を県全体に波及していくことが求められます。また、陸上自衛隊朝霞訓練場が東京2020オリンピック・パラリンピック*の開催会場になっており、オリンピック・パラリンピックなどを契機とした地域の魅力や活力の向上が求められます。

また、ゆとりある住環境や安全で快適な都市空間を形成するため、防災・治水対策や米軍基地跡地の活用、幹線道路網の強化などを進める必要があります。

地域づくりの方向性

若年世代の転入及び定住を促進するため、待機児童解消に向けた保育所などの整備促進、子育てしやすい住環境の整備などを重点的に進めます。

また、東京 2020 オリンピック・パラリンピック*などを契機に地域の魅力を更に高め、地域への愛着を醸成します。

一方、急速に進む高齢化に対応するには、高齢者の健康づくりの取組の更なる強化が必要です。

また、高齢者が住み慣れた地域で安心して暮らせるよう、医療、介護、介護予防、生活支援、住まいを切れ目なく提供できる体制づくりのため、モデル事業を実施し、地域包括ケアシステム*の構築を支援します。

首都直下地震や集中豪雨などの災害に備え、都県境の道路ネットワークの強化などの防災対策や治水対策などを進めるとともに、企業、NPOなど多様な主体との連携による自助・共助の取組を強化します。

意欲ある中小企業やベンチャー企業に対し、理化学研究所などの高度な研究開発機関との連携により高い付加価値を生み出す技術開発などを支援します。また、多くの研究機関や大学などが立地する優位性を生かした支援や、新たな企業の誘致を進めます。

多くの消費者を擁するなど地域の強みを生かし、ほうれんそう、にんじん、さつまいもなどの野菜の生産拡大や畑地かんがいなどの農業基盤の整備を進めるなど農業の収益性を高めます。

また、食料供給のほか、防災や景観形成機能など都市農業が有する多様な役割を踏まえ、農業体験を通じた地域住民との交流や地産地消の推進などにより、都市農業の振興を図ります。

円滑で安全な自動車交通を実現するため、国道254号和光富士見バイパスをはじめとする幹線道路の整備を進めるとともに、歩道や自転車通行環境の整備を進めます。

土地区画整理事業*などによる良好な都市環境の創出、狭い道路の拡幅により、活力を生み出すまちづくりを進めます。また、基地跡地については、地域の意向に沿った利用がなされるよう支援します。

新座の平林寺など武蔵野の面影を残す豊かな緑地や水辺空間の保全・活用に取り組み、都市の中にゆとりとうるおいを創出します。三富新田^{さんどめ}については、平地林の落ち葉を活用した循環型農業の振興などにより歴史的景観の保全・活用を図ります。



福岡河岸記念館（ふじみ野市）



主な施設・交通網と基盤整備の状況



主な取組

1. 未来への希望を実現する分野

■子供を安心して生み育てる希望をかなえる

- 保育所、認定こども園*、企業内保育所などの整備促進
- 放課後児童クラブ*の支援
- 子育てしやすい住宅の普及促進

■誰もが健康で安心して暮らせる社会をつくる

- 急速な高齢化に備えた健康長寿埼玉プロジェクトなど地域の実情に応じた健康づくりの取組支援
- 高齢者の急増に備えた医療・介護連携の促進などによる地域包括ケアシステム*の構築支援、高齢者向けの住まいなどの確保支援

2. 生活の安心を高める分野

■危機や災害に備える

- 首都直下地震に備えた道路啓開体制*の強化
- 河川改修の実施
- ゲリラ豪雨対策の実施
- 土砂災害警戒区域における警戒避難体制の構築

3. 人財の活躍を支える分野

■多彩な人財が活躍できる社会をつくる

- 就職を目指す若者、高齢者、女性及び障害者に対するきめ細かい支援



平林寺 山門（新座市） ©平林寺



陸上自衛隊朝霞訓練場（朝霞市、和光市、新座市）



4. 成長の活力をつくる分野

■埼玉の成長を生み出す産業を振興する

- 先端産業分野の研究開発支援
- 理化学研究所との連携によるベンチャー企業の育成、新製品・新技術の開発支援

■埼玉の農林業の成長産業化を支援する

- 農業生産を支える基盤整備
- 野菜などの生産振興の支援
- 地域の特徴を生かした都市農業の振興



超伝導リングサイクロトロン (SRC) (和光市)
©理化学研究所

■埼玉の活力を高める社会基盤をつくる

- スマートインターチェンジ*の設置に対する支援
- 幹線道路の未接続区間の解消
(国道254号和光富士見バイパスなど)
- 交通政策審議会答申*に基づく鉄道新線整備の検討・推進
(東京12号線(大江戸線)延伸)

5. 豊かな環境をつくる分野

■豊かな自然と共生する社会をつくる

- 平地林の保全・活用
- トラスト保全地など身近な緑地の保全
- みどりの^{さんどめ}三富地域づくりの推進
- 市町などと連携した水辺空間の利活用の促進

6. 魅力と誇りを高める分野

■県民が誇れる埼玉の魅力を高める

- 東京2020オリンピック・パラリンピック*の開催・支援、誰もが気軽にスポーツに親しめる機会と場の提供
- まちの価値を高める土地区画整理事業*の促進
- 大規模イベントを契機とした重点地区などでの景観改善の促進
- 米軍基地跡地の有効利用

■支え合いで魅力ある地域社会をつくる

- コミュニティ活動の促進、定住促進の取組強化
- 高齢者の社会参加の支援
- 外国人住民の地域活動への参加促進
- 東京2020オリンピック・パラリンピックに向けたボランティア育成

東部地域

春日部市、草加市、越谷市、八潮市、三郷市、吉川市、松伏町

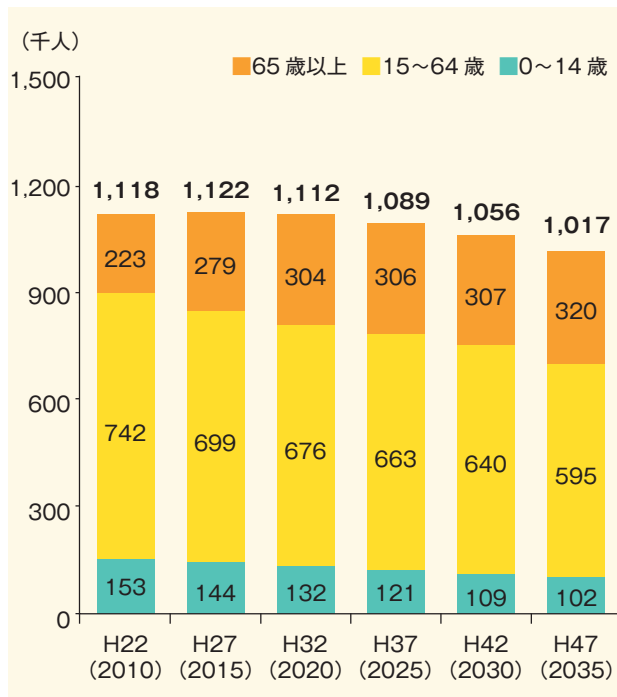
人口(県人口に占める割合)	1,140,029人 (15.7%)
面積(県面積に占める割合)	249.71km ² (6.6%)
人口密度	4,565.4人 / km ²

「国勢調査(平成27年)」(総務省)



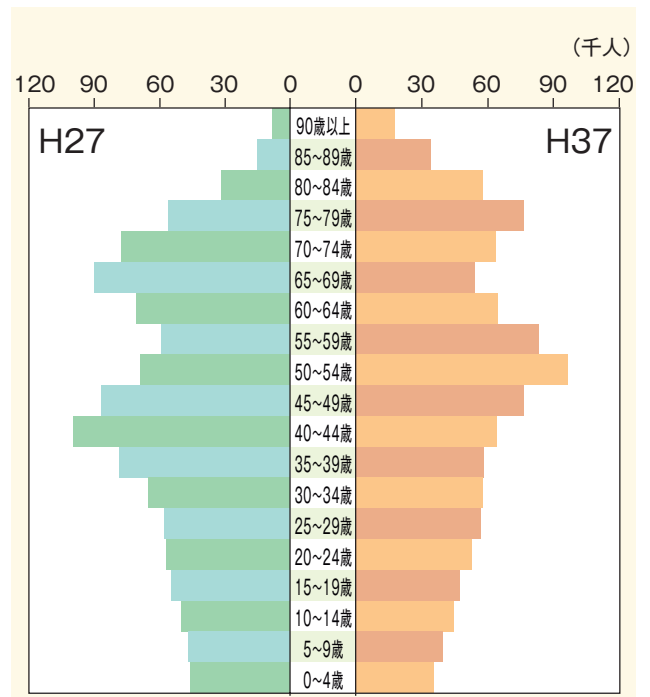
国指定名勝「おくのほそ道の風景地 草加松原」(草加市)

将来人口推計グラフ



「日本の地域別将来推計人口」(国立社会保障・人口問題研究所)

人口ピラミッドグラフ



「日本の地域別将来推計人口」(国立社会保障・人口問題研究所)



地域の概要

東京都に隣接し、東京都心から15～40km圏に位置しています。

江戸川、中川、元荒川、大落古利根川、綾瀬川などの河川や、葛西用水などの用水路が縦横に走る平坦な低地が広がっています。

古くから水田が開拓され、稲作を中心とした農耕が盛んな地域で、日光街道の宿場町として栄えました。中川、綾瀬川などには河岸が置かれて舟運が発達し、米などの集散地として発展しました。今日でも草加のせんべいや浴衣の藍染、春日部の桐たんす、越谷のだるまなど多様な特産品を生産しています。

明治以降、鉄道の開通とともに新たな市街地が形成され、多様な製造業が集積する工業都市として発展しました。高度経済成長期には、都心に近接する利便性から、草加松原団地などの大規模団地や宅地の開発が相次ぎ、人口が急増しました。その後も外環道の開通、つくばエクスプレスの開業などで交通利便性が更に高まり、新たな市街地が形成され、大型商業施設などの開設も相次いでいます。

JR武蔵野線、東武伊勢崎線・野田線、つくばエクスプレスが地域の東西南北を結び、外環道、国道4号・16号が広域幹線道路網を形成しています。



三郷中央駅（三郷市）



東京外環自動車道 三郷JCT周辺

地域の現状と課題

人口は114万人（平成27年（2015年））で、県人口の15.7%を占めています。人口増加率（平成22年（2010年）～平成27年（2015年））は2.0%で、地域全体では緩やかな人口増加が続いていますが、人口減少局面に入っている市町もあります。地域全体では若年世代を中心に転入超過が続いていますが、転出超過の市町もあり、子育て世代に魅力ある環境整備が課題となっています。

合計特殊出生率は1.31（平成26年（2014年））で、県内で2番目に高い水準にあります。

高齢化率は20.0%（平成22年（2010年））で、県平均（20.4%）とほぼ同じ水準にあります。今後10年間に、75歳以上の後期高齢者数は7万人程度増加する見込みで、増加率は県内で最も高くなっています。急速に進む高齢化に対し、高齢者の健康づくりや、地域の中で安心して暮らせる環境づくりが求められます。

また、多彩な特産品、旧日光街道、アニメゆかりの地など様々な地域資源にも恵まれており、こうした資源を有効に活用し、地域内外との交流を活性化し、地域の魅力を発信していくことが求められます。

また、ゆとりある住環境や安全で快適な都市空間を形成するため、防災・治水対策や水辺空間の活用、幹線道路網の強化などを進める必要があります。

地域づくりの方向性

若年世代の転入及び定住を促進するため、待機児童解消に向けた保育所などの整備促進、子育てしやすい住環境の整備などを重点的に進めます。

多彩な地域資源に恵まれた利点を生かし、暮らしやすく魅力あるまちづくり、コミュニティの活性化などにより、地域に対する愛着の醸成を図ります。

今後、県内で最も速いスピードで進む後期高齢者の増加に対応するため、市町と連携し、コミュニティ全体で高齢者が安心して暮らすことができる環境づくりを進めます。仲間づくりや生きがいづくりを支援し、高齢者の社会参加を後押しします。

また、高齢者が住み慣れた地域で安心して暮らせるよう、医療、介護、介護予防、生活支援、住まいを切れ目なく提供できる体制づくりを支援します。地域の特性を生かした健康づくりの取組などを推進し、生涯にわたる健康の確保を図ります。

首都直下地震などの災害に備え、過密な市街地における耐震化などの防災対策を進めるとともに、企業、NPOなど多様な主体との連携による自助・共助の取組を強化します。治水対策については、首都圏外郭放水路などの整備により改善が進んでいますが、近年頻発する集中豪雨などに備えるため、地域全体で浸水被害を軽減する取組を進めます。

地域経済の活力を高めるため、経営革新や技術開発などを目指す中小企業へのきめ細かい支援とともに、東部地域振興ふれあい拠点施設などによる創業・ベンチャー企業への支援を行います。また、旧日光街道の草加松原遊歩道や特産品などの地域資源を生かした観光振興に取り組みます。

担い手への農地集積・集約化や農業基盤の整備などを進め、水田経営の規模拡大を支援します。また、多くの消費者を擁するなどの地域の強みを生かし、こまつな、ねぎ、枝豆などの野菜、梨などの果樹の生産拡大や、くわいなどの特産農産物の生産振興を図るとともに、観光農園の魅力向上を進めるなど農業の収益性を高めます。

さらに、食料供給のほか、防災や景観形成機能など都市農業が有する多様な役割を踏まえ、農業体験を通じた地域住民との交流や地産地消の推進などにより、都市農業の振興を図ります。

市街地を通過する幹線道路を中心に慢性的な渋滞が生じていることから、幹線道路の整備とともに、交差点改良、歩道や自転車通行環境の整備などにより安全で快適なまちづくりを進めます。さらに、線路で分断されている市街地の一体化を図る鉄道と道路の立体交差化などを進めます。

既存の市街地における道路整備や、オープンスペースの確保を進めるとともに、駅周辺地域の市街地整備を促進し、快適で活力に満ちた都市空間を形成します。

中川、元荒川、葛西用水などの河川や農業用水に囲まれた豊かな水辺空間を生かしたまちづくりを進めるとともに、河川の水質改善に引き続き取り組みます。



葛西用水（越谷市）



川の駅・中川やしおフラワーパーク（八潮市）



主な施設・交通網と基盤整備の状況



主な取組

1. 未来への希望を実現する分野

■子供を安心して生み育てる希望をかなえる

- 保育所、認定こども園*、企業内保育所などの整備促進
- 放課後児童クラブ*の支援
- 子育てしやすい住宅の普及促進

■誰もが健康で安心して暮らせる社会をつくる

- 急速な高齢化に備えた健康長寿埼玉プロジェクトなど地域の実情に応じた健康づくりの取組支援
- 高齢者の急増に備えた医療・介護連携の促進などによる地域包括ケアシステム*の構築支援、高齢者向けの住まいなどの確保支援

2. 生活の安心を高める分野

■危機や災害に備える

- 首都直下地震に備えた道路啓開体制*の強化
- 河川改修や調節池の整備
- ゲリラ豪雨対策の実施
- 土砂災害警戒区域における警戒避難体制の構築

3. 人財の活躍を支える分野

■多彩な人財が活躍できる社会をつくる

- 就職を目指す若者、高齢者、女性及び障害者に対するきめ細かい支援
- 発達障害者就労支援センター（ジョブセンター草加）による就労支援



なまずモニュメント (吉川市)



まつぶし緑の丘公園 (松伏町)



4. 成長の活力をつくる分野

■埼玉の成長を生み出す産業を振興する

- 東部地域振興ふれあい拠点施設を拠点とした創業・ベンチャー企業支援

■埼玉の農林業の成長産業化を支援する

- 優良農地の確保と担い手への農地の集積・集約化の促進
- 農業生産を支える基盤整備
- 野菜、果樹などの生産振興の支援
- 特産農産物の生産振興
- 地域の特徴を生かした都市農業の振興
- 収益性の高い観光農業の振興



ふれあいキューブ(春日部市)

■埼玉の活力を高める社会基盤をつくる

- 幹線道路の未接続区間の解消(国道4号東埼玉道路など)や鉄道と道路の立体交差化
- 地域の新たな拠点となる土地区画整理事業*の実施と促進(つくばエクスプレス沿線地域)
- 交通政策審議会答申*に基づく鉄道新線整備の検討・推進(東京8号線延伸)

5. 豊かな環境をつくる分野

■持続的発展が可能な社会をつくる

- 下水道スマートエナジープロジェクト*の実施(中川水循環センター)

■豊かな自然と共生する社会をつくる

- 非かんがい期における農業用水路などへの通水の実施
- 市町などと連携した水辺空間の利活用の促進

6. 魅力と誇りを高める分野

■県民が誇れる埼玉の魅力を高める

- 多様な機関・団体と連携した観光客の誘致と回遊の促進
- 外国人観光客の来訪促進と受入体制の整備
- 旧日光街道などの観光資源・文化資源を生かした地域振興
- まちの価値を高める土地区画整理事業の実施と促進
- 生活にうるおいと安らぎを与える都市公園の整備

■支え合いで魅力ある地域社会をつくる

- コミュニティ活動の促進、定住促進の取組強化
- 高齢者の社会参加の支援
- 外国人住民の地域活動への参加促進



日光街道草加宿 神明庵(草加市)

さいたま地域

さいたま市

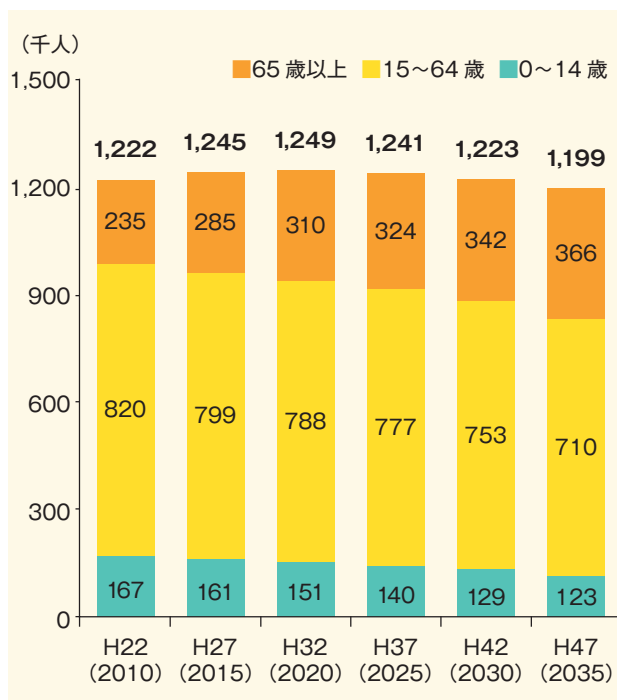
人口(県人口に占める割合)	1,264,253人 (17.4%)
面積(県面積に占める割合)	217.43km ² (5.7%)
人口密度	5,814.5人 / km ²

〔国勢調査(平成27年)〕(総務省)



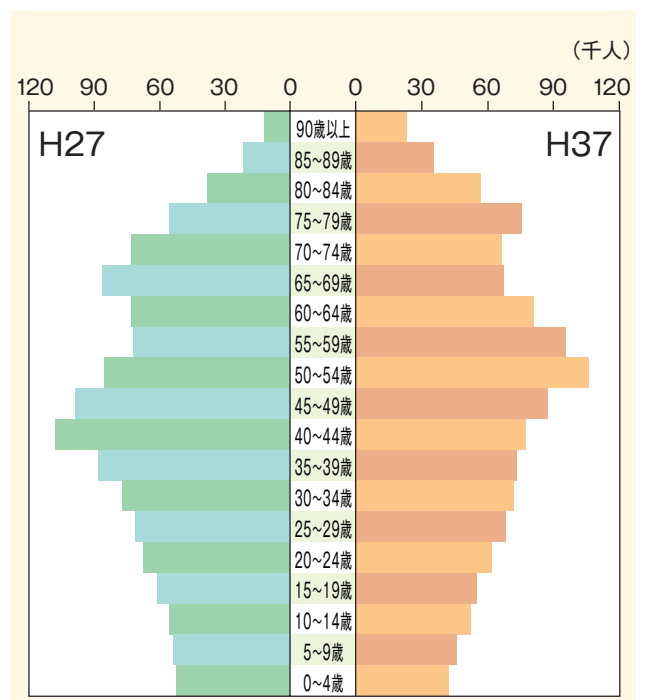
さいたまスーパーアリーナ

将来人口推計グラフ



「日本の地域別将来推計人口」(国立社会保障・人口問題研究所)

人口ピラミッドグラフ



「日本の地域別将来推計人口」(国立社会保障・人口問題研究所)



地域の概要

東京都心から20～30km圏に位置し、古くは中山道の宿場町として栄え、明治以降は行政・商業・業務など多様な機能が集積するまちとして発展しました。

平成13年（2001年）に浦和市、大宮市、与野市の合併によりさいたま市が誕生し、平成15年（2003年）に県内初の政令指定都市に移行しました。平成17年（2005年）には岩槻市と合併しています。

首都機能の一翼を担う国の行政機関がさいたま新都心に立地しているほか、製造、商業、サービスなど多様な産業が集積している地域です。また、さいたまスーパーアリーナや埼玉スタジアム2002公園、彩の国さいたま芸術劇場、鉄道博物館などスポーツや文化の拠点施設をはじめ、盆栽や人形などの伝統・技術、荒川や見沼田圃^{たんぼ}の緑豊かな空間など多彩な資源に恵まれています。

北海道や東北地方、上越、北陸とつながる新幹線をはじめ、JR東北線・高崎線・川越線・武蔵野線・埼京線、東武野田線、埼玉高速鉄道線、埼玉新都市交通伊奈線（ニューシャトル）が結節する東日本随一の交通の要衝となっています。

また、外環道や東北道、首都高埼玉大宮線・新都心線、国道16号・17号・122号・463号が格子状の道路交通網を形成し、平成28年には国道17号上尾道路（国道16号～圏央道）も開通して南北方向のアクセスが更に向上しました。

地域の現状と課題

人口は126万4千人（平成27年（2015年））で、県人口の17.4%を占めています。人口増加率（平成22年（2010年）～平成27年（2015年））は3.4%で、南部地域に次いで高くなっています。合計特殊出生率は1.28（平成26年（2014年））で、県内で3番目に高い水準にありますが、子育て世代の30代の女性の就業率が他地域に比べ低くなっており、子育て支援とともに再就職などへの支援が求められます。

高齢化率は19.2%（平成22年（2010年））で、県平均（20.4%）を下回っていますが、今後10年間に75歳以上の後期高齢者数は6万人程度増加する見込みです。急速に進む高齢化に対し、高齢者の健康づくりや、地域の中で安心して暮らせる環境づくりが求められます。

国や県の様々な行政機能が集積し、企業立地の動きも活発で、医療拠点の整備なども進んでいます。多様な機能が集積する利点と、東日本を代表する交通の要衝として主要都市に直結する強みを生かし、本県経済の活性化やにぎわいの創出をけん引する役割を果たしていくことが求められます。首都圏広域地方計画においては、東日本の対流拠点、災害時のバックアップ拠点としての機能の強化が期待されています。

また、さいたまスーパーアリーナ、埼玉スタジアム2002が東京2020オリンピック*の開催会場になっており、オリンピックを契機に地域内外との交流を更に活性化し、地域の魅力を発信していくことが必要です。



埼玉スタジアム2002

地域づくりの方向性

子育て世代の転入・定着を促進するため、保育所の整備促進など子育て支援の充実を図ります。

また、東京 2020 オリンピック*などを契機に地域の魅力を更に高め、地域への愛着を醸成します。

今後、急速に進む高齢化に対応するため、地域の特性を生かした健康づくりの取組や生活習慣病*予防対策を推進し、生涯にわたる健康の確保を図ります。

また、高齢者が住み慣れた地域で安心して暮らせるよう、医療、介護、介護予防、生活支援、住まいを切れ目なく提供できる体制づくりを支援します。

医療に対する県民の安心を確保するため、さいたま新都心の医療拠点などを活用し、高度な周産期医療*、救命救急医療の提供や医療を支える人材の育成を進めます。

首都直下地震や集中豪雨などの災害に備え、防災対策や治水対策などを進めるとともに、企業、NPOなど多様な主体との連携による自助・共助の取組を強化します。

先端産業支援センター埼玉、創業・ベンチャー支援センター埼玉などの各種支援機能を活用し、成長分野の産業育成や企業の競争力強化に取り組み、その効果を県全体に波及させていきます。

また、ハローワーク浦和・就業支援サテライト*や女性キャリアセンターなどによる就業支援を行い、県内企業と求職者のマッチングを推進します。

さいたまスーパーアリーナや埼玉スタジアム2002公園、彩の国さいたま芸術劇場、鉄道博物館などのスポーツ、文化の拠点施設を活用し、県全体のスポーツ、文化を振興するとともに、東京 2020 オリンピックなどの開催に向けて多様な地域資源をネットワーク化し、地域の魅力を国内外に発信していきます。

また、さいたま市と連携し、引き続き埼玉高速鉄道線（地下鉄7号線）の延伸の実現に向けた検討を進めます。さらに、新大宮上尾道路が整備されることにより、東京から北上するルートも強化されます。

担い手への農地集積・集約化や農業基盤の整備などを進め、水田経営の規模拡大を支援します。また、さといも、こまつななどの野菜、花きなどの生産拡大や、くわいなどの特産農産物や植木の生産振興を進めるなど、農業の収益性を高めます。

さらに、食料供給のほか、防災や景観形成機能など都市農業が有する多様な役割を踏まえ、農業体験を通じた地域住民との交流や地産地消の推進などにより、都市農業の振興を図ります。



芝川とさいたま新都心



さいたま市大宮盆栽美術館



主な施設・交通網と基盤整備の状況

凡例

- 自動車専用道路
- 自動車専用道路(事業区間)
- 国道
- 検討中の道路
- 鉄道
- 交通政策審議会答申路線
- 工業団地
- 主な取組に記載された主要施設
- 土地区画整理事業施行中地区
- 市街地再開発事業施行中地区



さいたま地域

さいたま市

主な取組

1. 未来への希望を実現する分野

■子供を安心して生み育てる希望をかなえる

- 保育所、認定こども園*、企業内保育所などの整備促進
- 放課後児童クラブ*の支援
- 子育てしやすい住宅の普及促進

■誰もが健康で安心して暮らせる社会をつくる

- 急速な高齢化に備えた健康長寿埼玉プロジェクトなど地域の実情に応じた健康づくりの取組支援
- 高齢者の急増に備えた医療・介護連携の促進などによる地域包括ケアシステム*の構築支援

2. 生活の安心を高める分野

■医療の安心を提供する

- 大学附属病院・医学系大学院などの整備による医師派遣体制の充実

■危機や災害に備える

- 首都直下地震に備えた道路啓開体制*の強化
- 河川改修や調節池の整備
- ゲリラ豪雨対策の実施
- 土砂災害警戒区域における警戒避難体制の構築



県立小児医療センターとさいたま赤十字病院

3. 人財の活躍を支える分野

■多彩な人財が活躍できる社会をつくる

- 就職を目指す若者、高齢者、女性及び障害者に対するきめ細かい支援（ハローワーク浦和・就業支援サテライト*、女性キャリアセンターなどが立地）
- 男女共同参画推進センター*における情報提供や相談などの実施



ハローワーク浦和・就業支援サテライト



4. 成長の活力をつくる分野

■埼玉の成長を生み出す産業を振興する

- 先端産業分野の研究開発支援
- 新都心ビジネス交流プラザの各種支援機関を活用した産業競争力の強化、経営革新などにチャレンジする中小企業の支援

■埼玉の農林業の成長産業化を支援する

- 優良農地の確保と担い手への農地の集積・集約化の促進
- 農業生産を支える基盤整備
- 野菜、花き、植木などの生産振興の支援
- 特産農産物の生産振興
- 地域の特徴を生かした都市農業の振興



先端産業支援センター埼玉

■埼玉の活力を高める社会基盤をつくる

- 高速道路をつなぐ地域高規格道路*の整備促進（新大宮上尾道路）
- 第3セクター鉄道*の経営安定化の支援
- 交通政策審議会答申*に基づく鉄道新線整備の検討・推進（埼玉高速鉄道線（地下鉄7号線）延伸）

5. 豊かな環境をつくる分野

■豊かな自然と共生する社会をつくる

- トラスト保全地など身近な緑地の保全
- 見沼田圃^{たんぼ}の保全・活用・創造
- 非かんがい期における農業用水路などへの通水の実施
- 市などと連携した水辺空間の利活用の促進

6. 魅力と誇りを高める分野

■県民が誇れる埼玉の魅力を高める

- 多様な機関・団体と連携した観光客の誘致と回遊の促進
- 外国人観光客の来訪促進と受入体制の整備
- 彩の国さいたま芸術劇場を中心とした埼玉の文化芸術の発信
- 東京 2020 オリンピック*の開催・支援、会場整備、誰もが気軽にスポーツに親しめる機会と場の提供
- まちの価値を高める土地区画整理事業*や市街地再開発事業*の促進
- 大規模イベントを契機とした重点地区などでの景観改善の促進



岩槻人形

■支え合いで魅力ある地域社会をつくる

- コミュニティ活動の促進、定住促進の取組強化
- 高齢者の社会参加の支援
- 外国人住民の地域活動への参加促進
- 東京 2020 オリンピック・パラリンピックに向けたボランティア育成

県央地域

鴻巣市、上尾市、桶川市、北本市、伊奈町

人口(県人口に占める割合)	529,088人 (7.3%)
面積(県面積に占める割合)	172.91km ² (4.6%)
人口密度	3,059.9人 / km ²

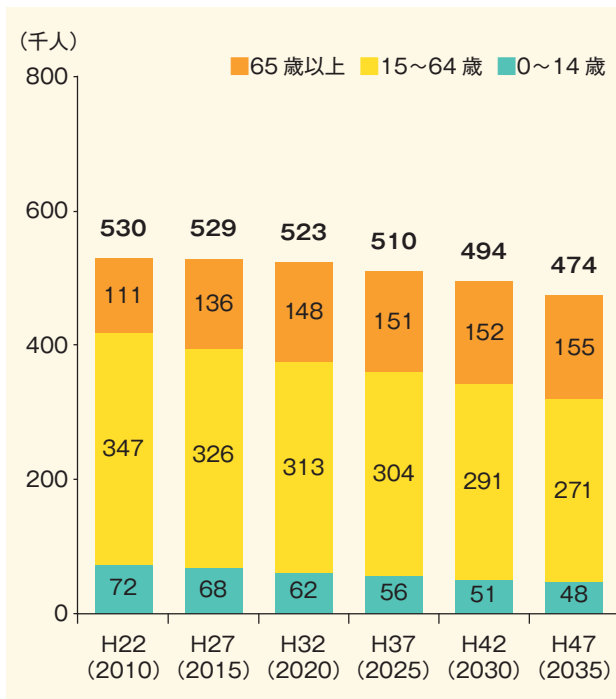
〔国勢調査(平成27年)〕(総務省)

圏央道ゾーン
県央地域



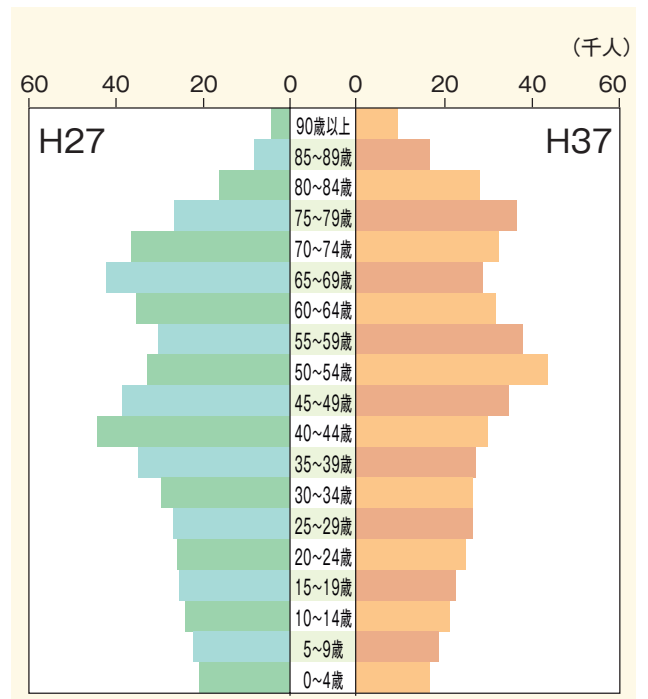
鴻巣びっくりひな祭り(鴻巣市)

将来人口推計グラフ



「日本の地域別将来推計人口」(国立社会保障・人口問題研究所)

人口ピラミッドグラフ



「日本の地域別将来推計人口」(国立社会保障・人口問題研究所)



地域の概要

県のほぼ中央部に位置し、東京都心から35～50km圏にあります。大宮台地上にある起伏の少ない平坦な地形で、東側には元荒川や綾瀬川、西側には荒川が流れています。

江戸時代には中山道の宿場町として栄え、荒川の舟運の要衝でもあり、周辺で生産される米麦などの農産物が集積する地としても発展しました。桶川の紅花や鴻巣のひな人形などは、今日も特産品として知られています。

明治以降、鉄道の開通とともに、駅を中心に新たな市街地が形成されました。製糸・機械・金属・食料品などの工場が進出し、製造業を中心とした産業の集積が進みました。

昭和40年代以降、住宅地の拡大や工場の立地など都市化が急激に進行し、人口が急増しました。昭和58年（1983年）の埼玉新都市交通伊奈線（ニューシャトル）の開業に伴い、沿線に新たな市街地が形成され、県立がんセンターや県民活動総合センターなどが整備されました。

この地域の交通網は、JR高崎線、埼玉新都市交通伊奈線（ニューシャトル）、国道17号などで形成され、南北方向が中心でしたが、圏央道の開通により、東西方向の交通利便性が大幅に向上しました。



県立がんセンター（伊奈町）

地域の現状と課題

人口は52万9千人（平成27年（2015年））で、県人口の7.3%を占めています。人口減少率（平成22年（2010年）～平成27年（2015年））は0.1%で、人口減少に転じました。社会増減の内訳を見ると、0～14歳の年少人口が転入超過となっており、子育て世代が転入していることが分かります。合計特殊出生率は1.21（平成26年（2014年））で、県内ではやや低い水準にあります。

高齢化率は20.9%（平成22年（2010年））で、県平均（20.4%）とほぼ同じ水準にあります。今後10年間に、75歳以上の後期高齢者数は3万人程度増加する見込みです。急速に進む高齢化に対し、高齢者の健康づくりや、地域の中で安心して暮らせる環境づくりが課題となっています。

圏央道の開通に伴い、圏央道沿線に食品関連の企業などが立地するなど、産業の集積が進んでいます。平成28年（2016年）には国道17号上尾道路（国道16号～圏央道）が開通し、南北方向のアクセスも一層強化されました。交通利便性を生かした産業立地を促進し、地域経済の活力を高め、魅力的な雇用の創出を図る必要があります。

平成27年（2015年）にはJR上野東京ラインが開業し、鉄道網のアクセス利便性も更に高まっています。通勤・通学の利便性の良さをアピールするとともに、子育てしやすい環境の整備を進めることで、子育て世代を中心とした転入・定着を促進することが求められます。

地域づくりの方向性

交通利便性が高く、ゆとりある居住空間など子育てしやすい環境といった強みを生かし、子育て支援の更なる充実を図るとともに、暮らしやすく魅力あるまちづくりを進めます。

あわせて、企業立地の促進などにより魅力ある雇用を創出し、子育て世代を中心とした転入・定着の促進を図ります。

高齢化の進行に対応するため、地域の特性を生かした健康づくりの取組や生活習慣病*予防対策を推進し、生涯にわたる健康の確保を図ります。

また、高齢者が住み慣れた地域で安心して暮らせるよう、医療、介護、介護予防、生活支援、住まいを切れ目なく提供できる体制づくりを支援します。

暮らしの安心・安全を確保するため、高齢者や自転車などの安全に配慮した歩道整備などの交通安全対策を推進します。また、首都直下地震や集中豪雨などの災害に備え、防災対策や治水対策などを進めるとともに、自主防災組織*への支援などをはじめ、企業、NPOなど多様な主体との連携や自助・共助の取組を強化します。

圏央道インターチェンジ周辺や上尾道路沿線など交通利便性が高い地域を中心に、市町や民間と連携して周辺環境との調和に配慮した計画的な開発を誘導し、競争力のある多様な産業の集積を進めます。

また、広域物流拠点としての魅力を高めるため、幹線道路の整備を進めます。

川幅日本一の荒川（鴻巣市・吉見町間）や自転車道などの観光資源を活用するとともに、B級グルメなど新たな資源の開発を支援し、観光振興と地域内外との交流を活性化します。

担い手への農地集積・集約化や農業基盤の整備などを進め、水田経営の規模拡大を支援します。

また、プリムラやパンジーなどの花き、こまつなやトマトなどの野菜、梨などの果樹の生産拡大を進めるなど、農業の収益性を高めます。

荒川の河川敷をはじめ豊かな緑や水辺空間が数多く残っていることから、貴重な緑地空間の保全・活用に取り組み、県民が水や緑と触れ合えるゆとりある生活環境を形成します。



圏央道 桶川加納IC周辺



B級グルメ 北本トマトカレー



主な施設・交通網と基盤整備の状況



県央地域

鴻巣市、上尾市、桶川市、北本市、伊奈町

主な取組

1. 未来への希望を実現する分野

■子供を安心して生み育てる希望をかなえる

- 保育所、認定こども園*、企業内保育所などの整備促進
- 放課後児童クラブ*の支援
- 子育てしやすい住宅の普及促進

■誰もが健康で安心して暮らせる社会をつくる

- 急速な高齢化に備えた健康長寿埼玉プロジェクトなど地域の実情に応じた健康づくりの取組支援
- 高齢者の急増に備えた医療・介護連携の促進などによる地域包括ケアシステム*の構築支援

2. 生活の安心を高める分野

■危機や災害に備える

- 首都直下地震に備えた道路啓開体制*の強化
- 河川改修や調節池の整備
- 土砂災害警戒区域における警戒避難体制の構築

3. 人財の活躍を支える分野

■多彩な人財が活躍できる社会をつくる

- 県民活動総合センターを拠点とした生涯学習の支援
- 就職を目指す若者、高齢者、女性及び障害者に対するきめ細かい支援



べに花畑（桶川市）



埼玉県立武道館（上尾市）



4. 成長の活力をつくる分野

■埼玉の成長を生み出す産業を振興する

- 食品産業、自動車関連産業、流通加工業など埼玉の特性を生かした産業の誘致

■埼玉の農林業の成長産業化を支援する

- 優良農地の確保と担い手への農地の集積・集約化の促進
- 農業生産を支える基盤整備
- 花き、野菜、果樹などの生産振興の支援

■埼玉の活力を高める社会基盤をつくる

- 高速道路をつなぐ地域高規格道路*の整備促進
(新大宮上尾道路)
- 幹線道路の未接続区間の解消(国道17号上尾道路など)

5. 豊かな環境をつくる分野

■持続的発展が可能な社会をつくる

- 下水道スマートエナジープロジェクト*の実施(元荒川水循環センター)

■豊かな自然と共生する社会をつくる

- トラスト保全地など身近な緑地の保全



緑のトラスト保全第13号地
無線山・KDDIの森(伊奈町)

6. 魅力と誇りを高める分野

■県民が誇れる埼玉の魅力を高める

- まちの価値を高める土地区画整理事業*や市街地再開発事業*の促進

■支え合いで魅力ある地域社会をつくる

- 県民活動総合センターを拠点とした多様な主体による地域づくり活動の支援

川越比企地域

川越市、東松山市、坂戸市、鶴ヶ島市、毛呂山町、越生町、滑川町、嵐山町、小川町、川島町、吉見町、鳩山町、ときがわ町、東秩父村

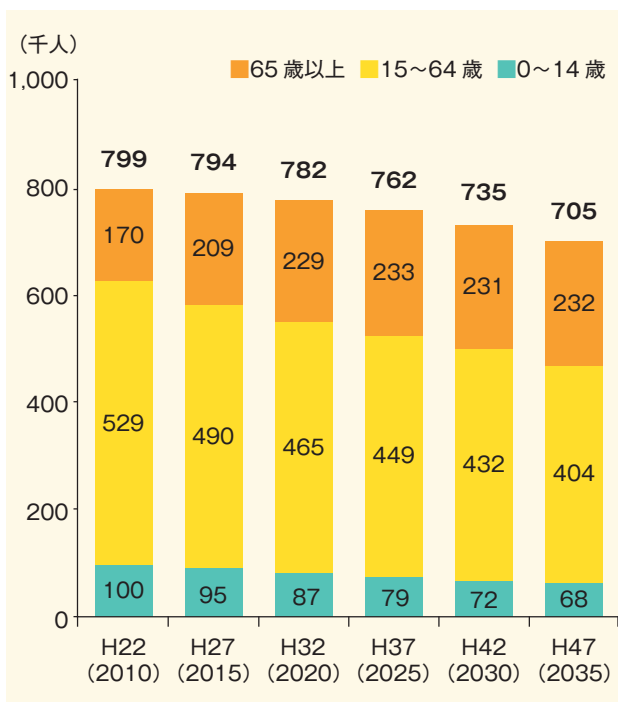
人口(県人口に占める割合)	799,509人 (11.0%)
面積(県面積に占める割合)	626.53km ² (16.5%)
人口密度	1,276.1人 / km ²

「国勢調査(平成27年)」(総務省)



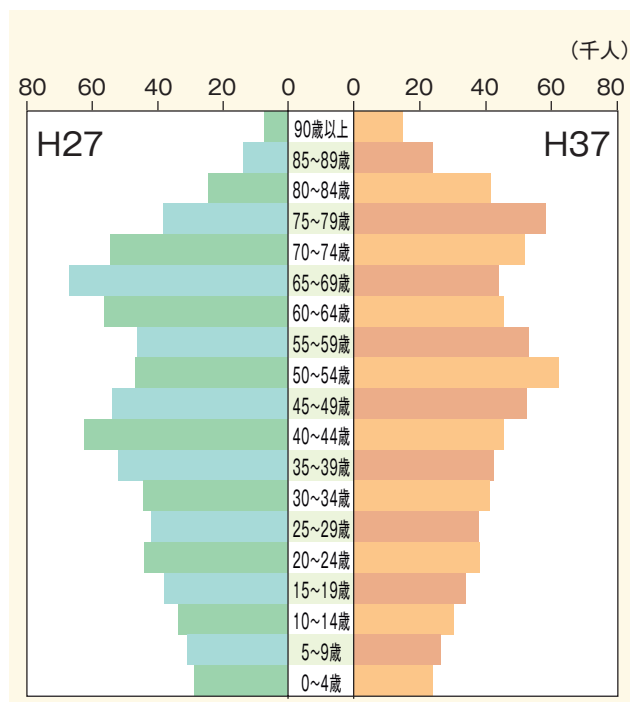
ユネスコ無形文化遺産 川越まつり(川越市)

将来人口推計グラフ



「日本の地域別将来推計人口」(国立社会保障・人口問題研究所)

人口ピラミッドグラフ



「日本の地域別将来推計人口」(国立社会保障・人口問題研究所)



地域の概要

県のほぼ中央部に位置し、東京都心から30~70km圏にあります。地域の西側は外秩父山地の外縁に属し、中央部の丘陵地帯・台地を経て、東端の低地に続く起伏に富んだ地形の間を荒川、市野川、新河岸川、入間川、越辺川、都幾川などの河川が流れています。

城下町である川越は新河岸川の舟運などから、小江戸と称されるほど繁栄しました。東松山、坂戸、嵐山、小川には川越・児玉往還や日光脇往還の宿場町が置かれ、農産物や和紙などの取引が盛んに行われました。今日も野菜、米麦のほか、狭山茶、毛呂山町のゆず、越生町の梅など多彩な特産品が生産されています。

明治以降、鉄道の開通とともに各駅の周辺に新たな市街地が形成され、昭和40年代以降、鳩山ニュータウンなどの大規模な住宅開発が進み、人口が急増しました。川越狭山工業団地などの工業団地が数多く造成され、製造業を中心とする多様な産業の集積が進みました。川越の蔵造りの町並み、越生の梅林、国営武蔵丘陵森林公園、ユネスコ無形文化遺産に登録された細川紙など魅力ある地域資源に恵まれています。

JR八高線・川越線、東武東上線・越生線、西武新宿線が地域の東西南北方向を結び、関越道、圏央道、国道16号・254号・407号が広域幹線道路網を形成しています。



国営武蔵丘陵森林公園（滑川町）



ユネスコ無形文化遺産 細川紙
（小川町、東秩父村）



北浅羽桜堤公園の安行寒桜
（坂戸市）

地域の現状と課題

人口は80万人（平成27年（2015年））で、県人口の11.0%を占めています。人口増減率（平成22年（2010年）～平成27年（2015年））はほぼ0%です。合計特殊出生率は1.19（平成26年（2014年））で県内ではやや低い水準にあります。

高齢化率は21.2%（平成22年（2010年））で、既に超高齢社会（21%超）に入っています。今後10年間の75歳以上の後期高齢者数の増加は町村部などでは伸びが緩やかである一方、一定の時期に宅地開発が進んだ地域などでは、県平均を上回るスピードで増加すると見込まれています。急速に進む高齢化に対し、高齢者の健康づくりや地域の中で安心して暮らせる環境づくりが課題となっています。

圏央道と関越道が結節することで企業立地のポテンシャルが飛躍的に向上し、インターチェンジ周辺などには多様な企業の立地が進んでいます。地域経済の活力を高め、魅力的な雇用を創出するため、今後も交通利便性の高さを生かした産業立地を促進する必要があります。

この地域は魅力ある多様な観光資源や特産物などの資源に恵まれています。また、製造業をはじめとする多彩な企業が集積し、大学の立地も多くなっています。さらに霞ヶ関カンツリー倶楽部が東京2020オリンピック*の開催会場になっており、オリンピックを契機として地域の魅力や活力を更に高めていくことが期待されています。

地域づくりの方向性

子育て世代を中心とする若年世代の転入・定着を促進するため、結婚や出産を望む男女の希望をかなえ、安心して子育てができる環境整備を進めます。

出会いの機会づくりや子育て支援の充実などに加え、魅力ある雇用の創出、就業・自立の支援などの取組を一体的に進めます。

高齢者が日常生活に不安や不便を感じることなく健康で生き生きと活躍できるよう、地域の特性を生かした健康づくりの取組などを推進するとともに、生活交通を支える路線バスの維持や空き家の利活用促進などにより、誰もが快適で暮らしやすいまちづくりを進めます。

また、高齢者が住み慣れた地域で安心して暮らせるよう、医療、介護、介護予防、生活支援、住まいを切れ目なく提供できる体制づくりのため、モデル事業を実施し、地域包括ケアシステム*の構築を支援します。

土砂災害や集中豪雨などに備え、防災対策や治水対策などを進めるとともに、自主防災組織*への支援などをはじめ、企業、NPOなど多様な主体との連携や自助・共助の取組を強化します。

圏央道と関越道が結節する利点を生かし、市町村や民間と連携して周辺の自然や景観、農地・林地との調和に配慮した産業基盤整備と企業誘致を進めます。

また、経済活動を支える円滑で安全な道路網を形成するため、インターチェンジへのアクセス改善などを進めます。

さらに、若者を中心とする働き手の確保を図るため、大学などと連携した若手人材の就職支援などに取り組みます。

外国からの観光客も多い川越の蔵造りの町並みをはじめ、東松山のスリーデーマーチなど知名度の高いイベント、多彩な特産品などを生かし、外国人を含むより多くの観光客を迎え入れる環境を整備します。

東京 2020 オリンピック*などの開催を契機に多彩な観光資源のネットワーク化を図り、商店街の振興も含め、観光客が繰り返し訪れる魅力ある観光地づくりを進めます。

担い手への農地集積・集約化や農業基盤の整備などを進め、水田経営の規模拡大を支援します。また、ほうれんそうやのらぼう菜などの野菜、茶、梅やいちじくなどの果樹の生産拡大を進めるとともに畜産の生産性向上を進めるなど、農業の収益性を高めます。

県産木材の生産コスト低減や供給体制の整備などにより、林業・木材産業の振興を図るとともに、県民参加の森づくりを進めます。また、野生動物による農林業への被害をなくすため、保護と管理の観点から適切な被害防止対策を推進します。

この地域は、比企丘陵をはじめとする緑豊かな自然環境と、越辺川、市野川、都幾川などの河川を擁しています。引き続き河川の水質改善や水辺空間の保全・活用を進めます。



越生梅林（越生町）



日本スリーデーマーチ（東松山市）



主な施設・交通網と基盤整備の状況



川越比企地域

川越市、東松山市、坂戸市、川島町、吉見町、鶴ヶ島市、鳩山町、越生町、滑川町、嵐山町、小川町、ときがわ町、東秩父村

主な取組

1. 未来への希望を実現する分野

■子供を安心して生み育てる希望をかなえる

- 結婚を希望する未婚者への出会いの機会の提供支援
- 保育所、認定こども園*、企業内保育所などの整備促進
- 放課後児童クラブ*の支援
- 子育てしやすい住宅の普及促進

■誰もが健康で安心して暮らせる社会をつくる

- 急速な高齢化に備えた健康長寿埼玉プロジェクトなど地域の実情に応じた健康づくりの取組支援
- 高齢者の急増に備えた医療・介護連携の促進などによる地域包括ケアシステム*の構築支援

2. 生活の安心を高める分野

■危機や災害に備える

- 首都直下地震に備えた道路啓開体制*の強化
- 河川改修の実施
- 土砂災害防止施設の整備や治山事業の実施
- 土砂災害警戒区域における警戒避難体制の構築

3. 人財の活躍を支える分野

■多彩な人財が活躍できる社会をつくる

- 就職を目指す若者、高齢者、女性及び障害者に対するきめ細かい支援
- 発達障害者就労支援センター（ジョブセンター川越）による就労支援



ウェスタ川越（川越市）



関越自動車道・圏央道 鶴ヶ島JCT周辺



4. 成長の活力をつくる分野

■ 埼玉の成長を生み出す産業を振興する

- 食品産業、自動車関連産業、流通加工業など埼玉の特性を生かした産業の誘致
- 先端産業の集積に向けた農業大学校跡地の活用検討
- 企業誘致などを促進する幹線道路の整備
- 西部地域振興ふれあい拠点施設を拠点とした創業・ベンチャー企業支援
- 魅力ある街並みを創出する道路の整備

■ 埼玉の農林業の成長産業化を支援する

- 優良農地の確保と担い手への農地の集積・集約化の促進
- 農業生産を支える基盤整備
- 野菜、茶、果樹などの生産振興の支援
- 畜産の生産性向上の支援
- 県産木材の生産コスト低減や供給体制の整備



収穫を迎えたゆず（毛呂山町）

■ 埼玉の活力を高める社会基盤をつくる

- 幹線道路の未接続区間の解消（国道407号鶴ヶ島日高バイパスなど）
- 中山間地域*の生活を支える道路の整備
- 生活交通を支える路線バスの維持・確保

5. 豊かな環境をつくる分野

■ 豊かな自然と共生する社会をつくる

- 平地林の保全・活用
- トラスト保全地など身近な緑地の保全
- みどりの三富^{さんどめ}地域づくりの推進
- 間伐や枝打ちなどによる適正な森林整備
- 市町村などと連携した水辺空間の利活用の促進



槻川（嵐山町）

6. 魅力と誇りを高める分野

■ 県民が誇れる埼玉の魅力を高める

- 多様な機関・団体と連携した観光客の誘致と回遊の促進
- 外国人観光客の来訪促進と受入体制の整備
- 東京 2020 オリンピック*の開催・支援、誰もが気軽にスポーツに親しめる機会と場の提供
- まちの価値を高める土地区画整理事業*の促進
- 大規模イベントを契機とした重点地区などでの景観改善の促進

■ 支え合いで魅力ある地域社会をつくる

- 東京 2020 オリンピック・パラリンピックに向けたボランティア育成

西部地域

所沢市、飯能市、狭山市、入間市、日高市

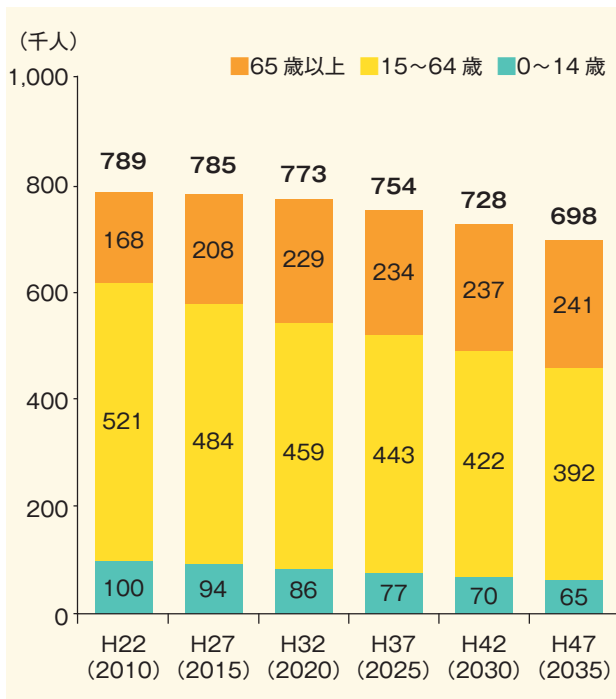
人口(県人口に占める割合)	773,962人 (10.7%)
面積(県面積に占める割合)	406.32km ² (10.7%)
人口密度	1,904.8人 / km ²

〔国勢調査(平成27年)〕(総務省)



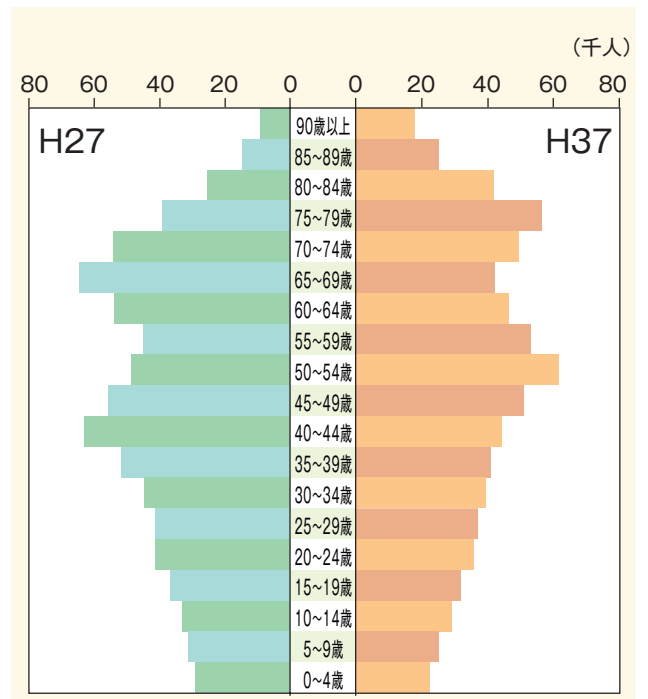
狭山茶畑(入間市)

将来人口推計グラフ



「日本の地域別将来推計人口」(国立社会保障・人口問題研究所)

人口ピラミッドグラフ



「日本の地域別将来推計人口」(国立社会保障・人口問題研究所)



地域の概要

県の西部に位置し、東京都心から30～60km圏にあります。

西側の外秩父山地から、高麗・加治・狭山などの丘陵を経て、東側の武蔵野台地に続く起伏に富んだ地形です。豊かな緑地や武蔵野の面影を今に伝える三富^{さんどめ}地域が広がり、入間川、高麗川など多くの河川が流れています。

古くは奈良時代に日高や飯能などの一帯に渡来人が移り住み、朝鮮半島の文化や技術を伝えました。江戸時代には所沢、狭山、入間が街道などの交通や物流の中継地となり、農産物や薪^{たきぎ}などの集積するまちとして発展しました。三富^{さんどめ}地域では短冊状の地割を特徴とする優良な農地が形成され、飯能からは西川材と呼ばれる優良な木材が入間川や高麗川を利用して江戸に運ばれました。

明治以降、鉄道が開通すると、鉄道沿線を中心に新たな市街地が形成されました。高度経済成長期には大規模な住宅団地や工業団地が造成され、人口が急増するとともに、県内有数の産業集積地となりました。狭山茶など全国的な知名度を誇る特産品や、建郡1300年を迎えた旧高麗郡に関連する高麗神社など、古い歴史を持つ名所や旧跡を有する地域です。

JR八高線・川越線・武蔵野線、西武池袋線・新宿線・秩父線などが地域を東西南北方向に結び、圏央道、国道16号・299号・407号・463号による広域幹線道路網を形成しています。



巾着田の曼珠沙華(日高市)



高麗神社(日高市)

地域の現状と課題

人口は77万4千人(平成27年(2015年))で、県人口の10.7%を占めています。人口減少率(平成22年(2010年)～平成27年(2015年))は1.8%で、平成22年(2010年)をピークに人口が減少に転じました。

合計特殊出生率は1.19(平成26年(2014年))で利根地域に次いで低く、平成23年(2011年)以降、人口が自然減に転じています。

高齢化率は21.3%(平成22年(2010年))で、既に超高齢社会(21%超)に入っています。今後10年間の75歳以上の後期高齢者数は、県平均を上回るスピードで増加すると見込まれています。急速に進む高齢化に対し、高齢者の健康づくりや地域の中で安心して暮らせる環境づくりが課題となっています。

圏央道の整備に伴い企業立地のポテンシャルが飛躍的に向上し、インターチェンジ周辺などに多様な企業の立地が進んでいます。地域経済の活力を高め、魅力的な雇用を創出するため、今後も交通利便性の高さを生かした産業立地を促進することが必要です。

地域づくりの方向性

生産年齢人口が減少していく中で地域の活力を維持し、若年世代の転入・定着を促進するため、産業の活性化や魅力ある雇用の創出、地域の魅力発信の強化に取り組みます。

子育て支援の充実や子育てに魅力を感じるまちづくりを進めるとともに、歴史・文化、自然環境などの多彩な地域資源、新たなテーマパーク、複合施設などの開設により地域の魅力を高め、地域への愛着を醸成します。

高齢化が進む中、高齢者が日常生活に不安や不便を感じることなく健康で生き生きと活躍できるよう、誰もが快適で暮らしやすいまちづくりを進めます。

高齢者が住み慣れた地域で安心して暮らせるよう、医療、介護、介護予防、生活支援、住まいを切れ目なく提供できる体制づくりを支援します。

また、地域の特性を生かした健康づくりの取組や生活習慣病*予防対策を推進し、生涯にわたる健康の確保を図ります。

土砂災害や集中豪雨などに備え、防災対策や治水対策などを進めるとともに、企業、NPOなど多様な主体との連携や自助・共助の取組を強化します。

圏央道周辺など交通利便性の高い地域において、市や民間と連携して周辺の自然や景観、農地・林地との調和に配慮した産業基盤整備と企業誘致を進めます。

また、経済活動を支える円滑で安全な道路網を形成するため、インターチェンジへのアクセス改善などを進めます。

多彩な企業、大学などが立地していることから、様々な分野の産学官の連携により地域の活力を高めていきます。また、若者を中心とする働き手の確保を図るため、大学などと連携した若手人材の就職支援などに取り組みます。

大都市近郊にありながら、狭山丘陵や加治丘陵などの豊かな緑、入間川流域の清流、巾着田、さんどめ三富地域の平地林など貴重な自然環境が数多く残り、多様な歴史・文化資源や祭り、野球やバスケットボールのプロチームも有しています。こうした多様な地域資源を生かし、魅力ある観光づくりを推進します。また、市や県民などとの連携により、自然環境の保全・活用を進めます。

ほうれんそうやさといもなどの野菜、茶、果樹の生産拡大や畑地かんがいなどの農業基盤の整備を進めます。また、畜産の生産性向上を進めるなど、農業の収益性を高めます。

県産木材の生産コスト低減や供給体制の整備などにより、林業・木材産業の振興を図るとともに、県民参加の森づくりを進めます。また、野生動物による農林業への被害をなくすため、保護と管理の観点から適切な被害防止対策を推進します。



緑のトラスト保全第9号地 堀兼・上赤坂の森(狭山市)



主な施設・交通網と基盤整備の状況



西部地域

所沢市、飯能市、狭山市、入間市、日高市

主な取組

1. 未来への希望を実現する分野

■子供を安心して生み育てる希望をかなえる

- 結婚を希望する未婚者への出会いの機会の提供支援
- 保育所、認定こども園*、企業内保育所などの整備促進
- 放課後児童クラブ*の支援
- 子育てしやすい住宅の普及促進

■誰もが健康で安心して暮らせる社会をつくる

- 急速な高齢化に備えた健康長寿埼玉プロジェクトなど地域の実情に応じた健康づくりの取組支援
- 高齢者の急増に備えた医療・介護連携の促進などによる地域包括ケアシステム*の構築支援

2. 生活の安心を高める分野

■危機や災害に備える

- 首都直下地震に備えた道路啓開体制*の強化
- 河川改修や調節池の整備
- 土砂災害防止施設の整備や治山事業の実施
- 土砂災害警戒区域における警戒避難体制の構築

3. 人財の活躍を支える分野

■多彩な人財が活躍できる社会をつくる

- 就職を目指す若者、高齢者、女性及び障害者に対するきめ細かい支援



名栗湖（有間ダム）（飯能市）



所沢航空記念公園（所沢市）



4. 成長の活力をつくる分野

■埼玉の成長を生み出す産業を振興する

- 食品産業、自動車関連産業、流通加工業など埼玉の特性を生かした産業の誘致
- 企業誘致などを促進する幹線道路の整備

■埼玉の農林業の成長産業化を支援する

- 農業生産を支える基盤整備
- 野菜、茶、果樹などの生産振興の支援
- 畜産の生産性向上の支援
- 県産木材の生産コスト低減や供給体制の整備



狭山茶

■埼玉の活力を高める社会基盤をつくる

- 幹線道路の未接続区間の解消（国道407号鶴ヶ島日高バイパスなど）
- 中山間地域*の生活を支える道路の整備
- 生活交通を支える路線バスの維持・確保
- 交通政策審議会答申*に基づく鉄道新線整備の検討・推進（東京12号線（大江戸線）延伸）

5. 豊かな環境をつくる分野

■豊かな自然と共生する社会をつくる

- 平地林の保全・活用
- トラスト保全地など身近な緑地の保全
- みどりの三富^{さんとめ}地域づくりの推進
- 間伐や枝打ちなどによる適正な森林整備
- 市などと連携した水辺空間の利活用の促進

6. 魅力と誇りを高める分野

■県民が誇れる埼玉の魅力を高める

- テーマパークなどの資源を生かした地域振興
- まちの価値を高める土地区画整理事業*や市街地再開発事業*の促進
- 米軍基地跡地の有効利用



圏央道 狭山日高IC周辺

利根地域

行田市、加須市、羽生市、久喜市、蓮田市、幸手市、白岡市、
宮代町、杉戸町

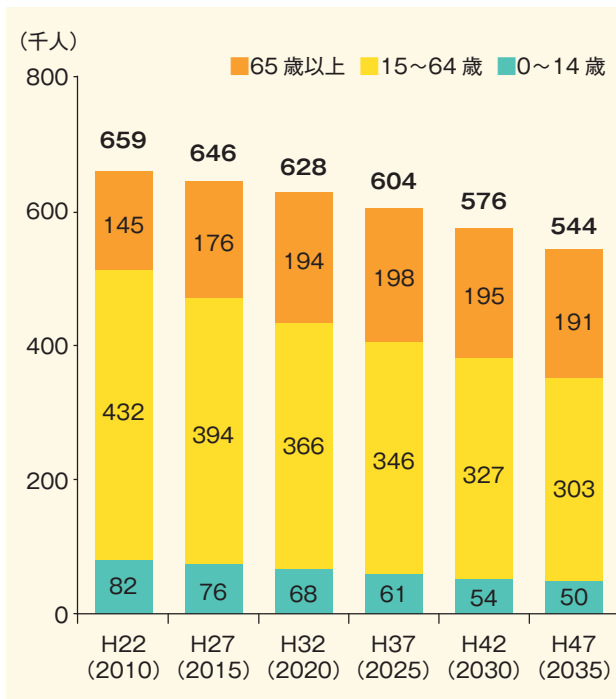
人口(県人口に占める割合)	647,184人 (8.9%)
面積(県面積に占める割合)	473.95km ² (12.5%)
人口密度	1,365.5人 / km ²

〔国勢調査(平成27年)〕(総務省)



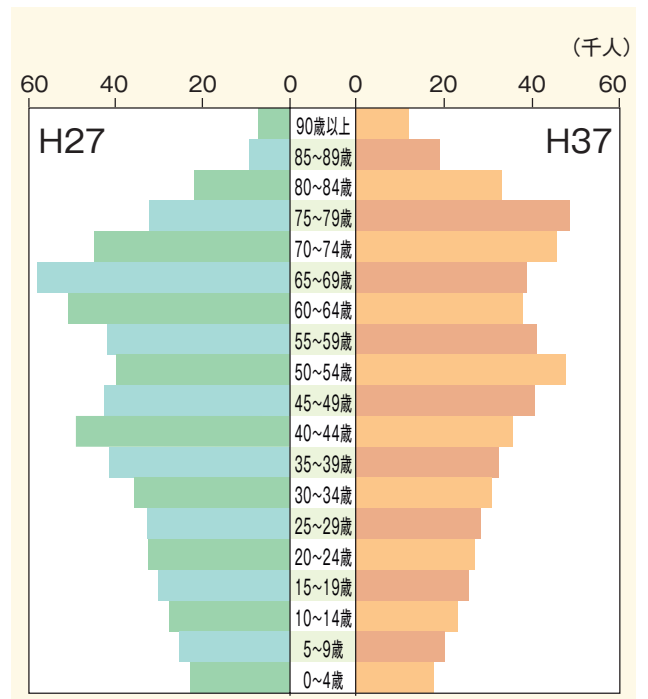
権現堂の桜堤(幸手市)

将来人口推計グラフ



「日本の地域別将来推計人口」(国立社会保障・人口問題研究所)

人口ピラミッドグラフ



「日本の地域別将来推計人口」(国立社会保障・人口問題研究所)



地域の概要

関東平野のほぼ中央に当たる県の北東部にあり、東京都心から40～60km圏に位置しています。地域の大半は勾配の極めて緩やかな低地で、利根川、江戸川、中川、大落古利根川などの河川や武蔵水路、葛西用水、見沼代用水などの農業用水路が広大な水路網を形成しています。

県名発祥の地といわれる埼玉古墳群^{ききたま}など、古くからの歴史を持つ地域です。江戸時代には江戸の治水と新田開発のための利根川の東遷が行われ、度重なる水路の開削などにより今日の河川・水路網の原形が形成されました。利根川からの豊かな水や平坦な地形、肥沃な土壌を生かした稲作が盛んで、県内有数の穀倉地帯となっています。

明治以降、鉄道が開通すると駅を中心に市街地が形成されました。昭和40年代以降、東北道が開通すると大規模工業団地の造成が進み、金属製品製造業など多様な産業の集積が進みました。

JR東北線、東武伊勢崎線・日光線、秩父鉄道のほか、圏央道、東北道、国道4号・122号・125号・354号が広域幹線道路網を形成しています。

米麦、野菜、梨など多彩な農産物や、うどんなどの加工品、古墳や忍城^{おし}、日光街道の宿場町などの歴史的資源、行田の足袋、羽生の藍染、加須の鯉のぼりなど多様な伝統産業、ラムサール条約湿地である渡良瀬遊水地、アニメの舞台、ご当地キャラ、スポーツライミングなど多彩な地域資源に恵まれています。

地域の現状と課題

人口は64万7千人(平成27年(2015年))で、県人口の8.9%を占めています。人口減少率(平成22年(2010年)～平成27年(2015年))は1.9%で、平成12年(2000年)をピークに

人口は減少に転じています。0～14歳の年少人口が転入超過となっており、子育て世代が転入しているものの、20歳代では著しい転出超過となっています。若年世代を中心とした地域外への流出を抑え、転入・定着を促進するには、魅力ある雇用の確保とともに、若者の就職・自立や結婚・出産・子育ての支援を進める必要があります。

合計特殊出生率は1.14(平成26年(2014年))で、平成16年(2004年)以降、人口の自然減が続いています。減少数は拡大傾向にあり、若者の定着と子育て世代の転入促進を図る必要があります。

高齢化率は22.0%(平成22年(2010年))で、既に超高齢社会(21%超)に入っており、今後10年間の75歳以上の後期高齢者数の伸びも県平均と同程度のスピードとなる見込みです。

圏央道が東北道と結節することにより企業立地のポテンシャルが大きく向上し、圏央道沿線を中心に企業立地が進んでいます。また、JR上野東京ラインの開業により、鉄道の利便性も向上しています。若年世代の転入・定着促進を図るため、交通利便性の高さを生かした産業立地を進め、魅力的な雇用を創出する必要があります。



埼玉古墳群(行田市)

地域づくりの方向性

若者の定着と子育て世代の転入・定着を促進するため、圏央道などの沿線地域への産業基盤整備とともに、交通利便性などを生かした産業立地を進め、魅力ある雇用を創出します。

こうした地域の魅力を広域的に発信するとともに、結婚や出産の希望をかなえる取組を進めます。さらに、農業の生産力強化などを支援し、多彩な地域資源を生かした観光振興などにより、地域の活力を高めていきます。

高齢化が進む中、高齢者が健康で生き生きと活躍できるよう、誰もが快適で暮らしやすいまちづくりを進めます。

また、高齢者が住み慣れた地域で安心して暮らせるよう、医療、介護、介護予防、生活支援、住まいを切れ目なく提供できる体制づくりのため、モデル事業を実施し、地域包括ケアシステム*の構築を支援します。

地域の特性を生かした健康づくりの取組や生活習慣病*予防対策を推進し、生涯にわたる健康の確保を図ります。

この地域の大半が河川や水路に囲まれた低地で、昭和22年(1947年)に発生したカスリーン台風では利根川などの堤防が決壊し、大きな被害が生じました。利根川などの周辺地域の浸水被害を軽減するため、引き続き治水対策の取組を進めるとともに、自主防災組織*への支援などをはじめ、地震など様々な災害に対する自助・共助の取組を強化します。

圏央道・東北道周辺や広域幹線道路沿線など交通利便性の高い地域において、周辺の自然や景観、農地との調和に配慮しながら、地元市町や民間と連携して産業基盤整備を進め、多様な企業の集積を図ります。また、経済活動を支える円滑で安全な道路網を形成するため、インターチェンジへのアクセス改善などを進めます。さらに、大学などと連携し、ものづくり産業などの担い手を育成します。

担い手への農地集積・集約化や農業基盤の整備などを進め、水田経営の規模拡大を支援します。また、きゅうりやトマトなどの野菜、梨などの果樹、ホンモロコなどの水産物の生産拡大を進めます。さらに、養豚や酪農などの畜産の生産性向上を進めるなど、農業の収益性を高めます。

埼玉古墳群さきたまや忍城おしなどの史跡、日光街道の宿場町、アニメの舞台となった鷲宮神社などの豊富な地域資源を生かし、地域独自の魅力を県内外に発信します。

地域の特性を生かした公園整備などにより、ゆとりを実感できる空間を形成するとともに、うるおいのある水辺空間の保全・活用を進めます。



忍城(行田市)



鷲宮神社(久喜市)



主な施設・交通網と基盤整備の状況



行田市、加須市、羽生市、久喜市、蓮田市、幸手市、白岡市、宮代町、杉戸町

利根地域

主な取組

1. 未来への希望を実現する分野

■子供を安心して生み育てる希望をかなえる

- 結婚を希望する未婚者への出会いの機会の提供支援
- 保育所、認定こども園*、企業内保育所などの整備促進
- 放課後児童クラブ*の支援
- 子育てしやすい住宅の普及促進

■誰もが健康で安心して暮らせる社会をつくる

- 高齢化の進展に対応した健康長寿埼玉プロジェクトなど地域の実情に応じた健康づくりの取組支援
- 高齢者の急増に備えた医療・介護連携の促進などによる地域包括ケアシステム*の構築支援

2. 生活の安心を高める分野

■危機や災害に備える

- 首都直下地震に備えた道路啓開体制*の強化
- 河川改修や調節池の整備
- ゲリラ豪雨対策の実施

3. 人財の活躍を支える分野

■多彩な人財が活躍できる社会をつくる

- 就職を目指す若者、高齢者、女性及び障害者に対するきめ細かい支援



加須市民平和祭のジャンボこいのぼり(加須市)



圏央道 白岡菖蒲IC周辺



4. 成長の活力をつくる分野

■埼玉の成長を生み出す産業を振興する

- 大学と連携した産業人材の育成
- 食品産業、自動車関連産業、流通加工業など埼玉の特性を生かした産業の誘致
- 企業誘致などを促進する幹線道路の整備

■埼玉の農林業の成長産業化を支援する

- 優良農地の確保と担い手への農地の集積・集約化の促進
- 農業生産を支える基盤整備
- 野菜、果樹、水産物などの生産振興の支援
- 畜産の生産性向上の支援



埼玉ブランドの梨「彩玉」
さいぎよく

■埼玉の活力を高める社会基盤をつくる

- 幹線道路の未接続区間の解消（国道354号板倉北川辺バイパス、国道125号栗橋大利根バイパスなど）
- 交通政策審議会答申*に基づく鉄道新線整備の検討・推進（埼玉高速鉄道線（地下鉄7号線）延伸）

5. 豊かな環境をつくる分野

■豊かな自然と共生する社会をつくる

- トラスト保全地など身近な緑地の保全
- 非かんがい期における農業用水路などへの通水の実施
- 市町などと連携した水辺空間の利活用の促進

6. 魅力と誇りを高める分野

■県民が誇れる埼玉の魅力を高める

- 歴史的資源や文化資源などを生かした観光客の誘致
- まちの価値を高める土地区画整理事業*や市街地再開発事業*の促進
- 生活にうるおいと安らぎを与える都市公園の整備



日光街道杉戸宿 角穀跡（杉戸町）

北部地域

熊谷市、本庄市、深谷市、美里町、神川町、上里町、寄居町

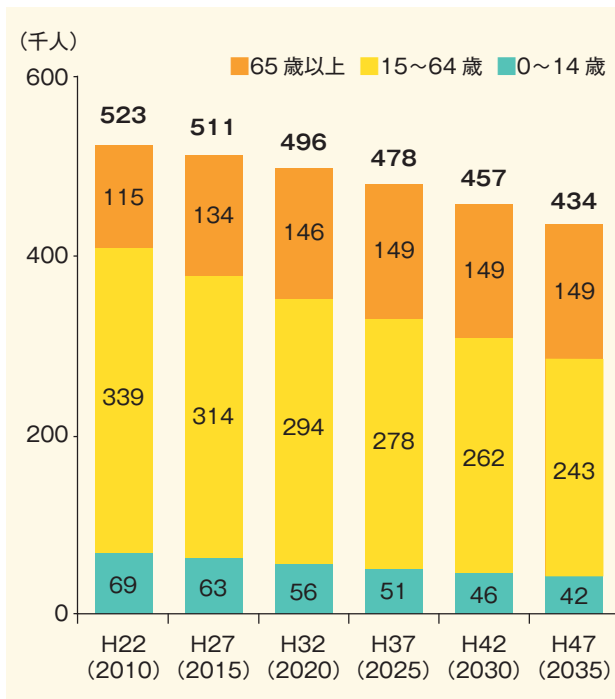
人口(県人口に占める割合)	509,848人 (7.0%)
面積(県面積に占める割合)	562.12km ² (14.8%)
人口密度	907.0人 / km ²

〔国勢調査(平成27年)〕(総務省)



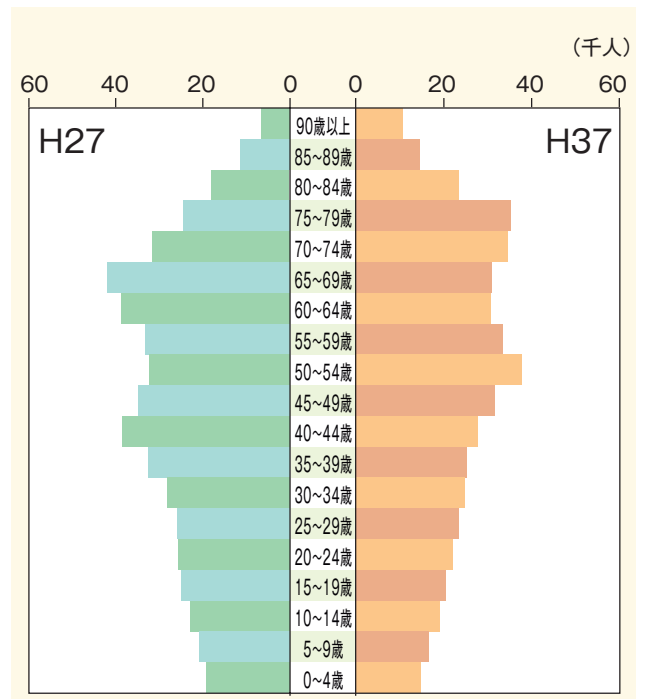
熊谷うちわ祭(熊谷市)

将来人口推計グラフ



「日本の地域別将来推計人口」(国立社会保障・人口問題研究所)

人口ピラミッドグラフ



「日本の地域別将来推計人口」(国立社会保障・人口問題研究所)



地域の概要

県の北西部に位置し、東京都心から50～80km圏にあります。

西端の山地から丘陵地帯、中央に広がる台地を経て、東端の低地へと続く起伏に富んだ地形で、利根川、荒川、小山川などの豊かな水と肥沃な土壌に恵まれた地域です。

古くは中山道の宿場町として、また物資の集散地や商都として発展しました。明治以降、鉄道が開通すると交通の要衝としての重要性が更に高まり、駅を中心に市街地が形成され、製造業などの工場の立地が進みました。昭和30年代以降、熊谷、本庄、深谷に大規模な工業団地が相次いで造成され、関越道にアクセスしやすいことから、電機、機械、化学、食料品など多様な産業の集積が進みました。

ナショナルトレーニングセンター競技別強化拠点*施設に指定された熊谷スポーツ文化公園の熊谷ラグビー場は「西の花園、東の熊谷」と称されるラグビーの聖地です。

上越・北陸新幹線のほか、JR高崎線・八高線、東武東上線、秩父鉄道からなる鉄道網、関越道、国道17号・125号・140号・254号・407号・462号からなる広域幹線道路網を有しています。圏央道と関越道の結節などに伴い、企業立地のポテンシャルが高まっています。

平坦な地形、肥沃な土壌に恵まれた県内有数の農業地帯であり、野菜、花き、米麦、果樹の栽培が盛んに行われています。

地域の現状と課題

人口は51万人（平成27年（2015年））で、県人口の7.0%を占めています。

人口減少率（平成22年（2010年）～平成27年（2015年））は2.4%で、平成12年（2000年）をピークに人口は減少に転じています。20歳代の転出が多く、転出先はさいたま市や東京都が多くなっています。

合計特殊出生率は1.22（平成26年（2014年））で、平成16年（2004年）以降自然減が続き、減少数は拡大傾向にあります。若年世代を中心とした地域外への流出を抑え、転入・定着を促進するには、魅力ある雇用の確保とともに、若者の就職・自立や結婚・出産・子育ての支援を進める必要があります。

高齢化率は21.9%（平成22年（2010年））で、既に超高齢社会（21%超）に入っていますが、今後10年間の75歳以上の後期高齢者数の伸びは、県全体の中では緩やかになると見込まれます。

圏央道の県内全線開通や関越道におけるスマートインターチェンジ*の設置により、交通利便性が高まっています。地域経済の活力を高め、魅力的な雇用を創出するため、交通利便性の高さを生かした産業立地を進める必要があります。

この地域は熊谷スポーツ文化公園などの施設、熊谷うちわ祭や寄居玉淀水天宮祭の個性豊かな祭りなど豊富な地域資源を有しており、ラグビーワールドカップ2019*の開催などを機に、地域の魅力や活力を更に高めていくことが期待されています。



競進社模範蚕室（本庄市）

地域づくりの方向性

若者の転入・定着を促進するため、高速道路にアクセスしやすい強みを生かした企業誘致などにより、魅力ある雇用を創出します。また、広域的な物流機能を高め、産業活性化を図るため幹線道路の整備を進めます。

高齢化が進む中、高齢者が日常生活に不安や不便を感じることなく健康で生き生きと活躍できるよう、誰もが快適で暮らしやすいまちづくりを進めます。

高齢者が住み慣れた地域で安心して暮らせるよう、医療、介護、介護予防、生活支援、住まいを切れ目なく提供できる体制づくりを支援します。

地域の特性を生かした健康づくりの取組や生活習慣病*予防対策を推進し、生涯にわたる健康の確保を図ります。

土砂災害や集中豪雨などに備え、防災対策や治水対策などを進めるとともに、自主防災組織*への支援などをはじめ、企業、NPOなど多様な主体との連携や自助・共助の取組を強化します。

食品関連産業、自動車関連産業、流通加工業など、地域の特色や強みを生かした企業誘致を推進します。また、大学や産業関連支援機関などと連携した取組によりイノベーション*を促進し、経営革新や技術開発などを目指す中小企業へのきめ細かい支援を行います。

寄居の鉢形城跡、妻沼聖天山、絹産業関連遺産などの史跡・文化財、神川の三波石峡さんばせききょうや城峯公園などの自然景観、熊谷スポーツ文化公園などの施設、熊谷うちわ祭など個性豊かな祭りなどの地域資源を活用し、多彩な体験型観光を振興します。ラグビーワールドカップ2019*の開催などを契機に、その会場となる熊谷スポーツ文化公園にヒートアイランド*対策を施すほか、スポーツツーリズムの取組などにより、地域の多彩な魅力を高め、発信していきます。

担い手への農地集積・集約化や農業基盤の整備などを進め、水田経営の規模拡大を支援します。また、ねぎ、ブロッコリーなどの野菜、ゆり、チューリップなどの花き、梨などの果樹、植木などの生産拡大を進めるとともに、養鶏、酪農、養豚、肉用牛などの畜産の生産性向上を進めるなど、農業の収益性を高めます。

さらに、ブルーベリーなどの観光農園の魅力向上を進め、観光農業を振興します。

県産木材の生産コスト低減や供給体制の整備などにより、林業・木材産業の振興を図るとともに、県民参加の森づくりを進めます。また、野生動物による農林業への被害をなくすため、保護と管理の観点から適切な被害防止対策を推進します。

競争力ある多様な産業と良好な居住空間が共存する、魅力あふれるまちづくりを進めます。



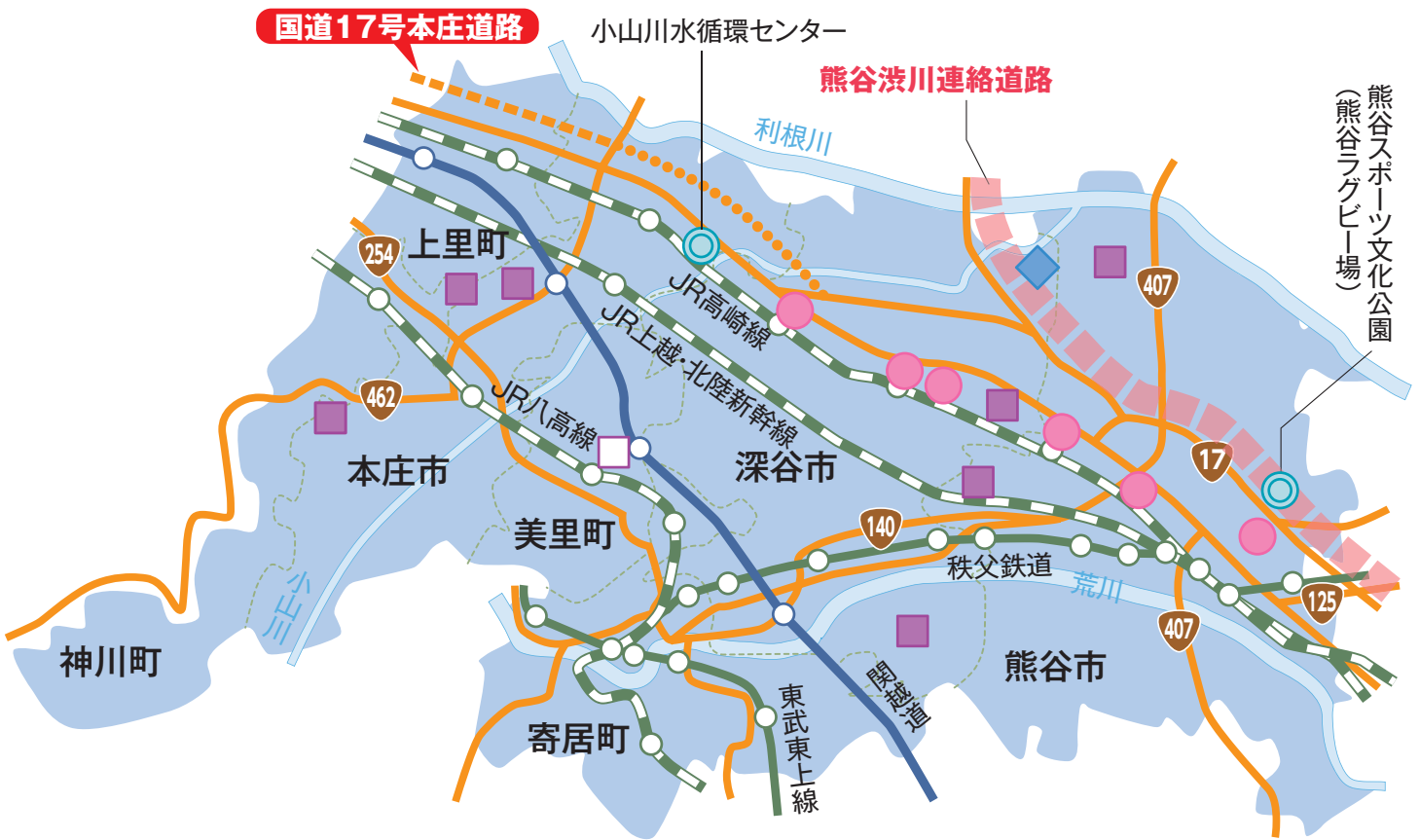
JR高崎線 深谷駅 (深谷市)



三波石峡 (神川町)



主な施設・交通網と基盤整備の状況



凡例

- 自動車専用道路
- 国道
- 国道(事業区間)
- 国道(計画区間)
- 検討中の道路
- 鉄道
- 工業団地(産業団地を含む)
- 工業団地(整備中)
- 主な取組に記載された主要施設
- 土地区画整理事業施行中地区
- ほ場整備事業施行地区

熊谷市、本庄市、深谷市、美里町、神川町、上里町、寄居町

北部地域

主な取組

1. 未来への希望を実現する分野

■誰もが健康で安心して暮らせる社会をつくる

- 高齢化の進展に対応した健康長寿埼玉プロジェクトなど
地域の実情に応じた健康づくりの取組支援
- 高齢者の急増に備えた医療・介護連携の促進などによる
地域包括ケアシステム*の構築支援

2. 生活の安心を高める分野

■危機や災害に備える

- 河川改修の実施
- 土砂災害防止施設の整備や治山事業の実施
- 土砂災害警戒区域における警戒避難体制の構築



こだま千本桜 (本庄市)

3. 人財の活躍を支える分野

■多彩な人財が活躍できる社会をつくる

- 就職を目指す若者、高齢者、女性及び障害者に対するきめ細かい支援
- 発達障害者就労支援センター（ジョブセンター熊谷）による就労支援



関越自動車道 上里スマートIC



寄居北條まつり (寄居町)



4. 成長の活力をつくる分野

■埼玉の成長を生み出す産業を振興する

- 食品産業、自動車関連産業、流通加工業など埼玉の特性を生かした産業の誘致
- 新製品・新技術の開発支援

■埼玉の農林業の成長産業化を支援する

- 優良農地の確保と担い手への農地の集積・集約化の促進
- 農業生産を支える基盤整備
- 野菜、花き、果樹、植木などの生産振興の支援
- 畜産の生産性向上の支援
- 収益性の高い観光農業の振興
- 県産木材の生産コスト低減や供給体制の整備



ブルーベリー（美里町）

■埼玉の活力を高める社会基盤をつくる 県議会による一部修正

- 幹線道路の未接続区間の解消（国道17号本庄道路など）
- 中山間地域*の生活を支える道路の整備
- 生活交通を支える路線バスの維持・確保

5. 豊かな環境をつくる分野

■持続的発展が可能な社会をつくる

- 下水道スマートエナジープロジェクト*の実施（小山川水循環センター）
- ラグビーワールドカップ2019*の開催を契機とした熊谷スポーツ文化公園のヒートアイランド*対策の実施

■豊かな自然と共生する社会をつくる

- 間伐や枝打ちなどによる適正な森林整備
- 市町などと連携した水辺空間の利活用の促進



熊谷ラグビー場（熊谷市）

6. 魅力と誇りを高める分野

■県民が誇れる埼玉の魅力を高める

- 多様な機関・団体と連携した観光客の誘致と回遊の促進
- ラグビーワールドカップ2019の開催・支援、会場整備、輸送力向上、誰もが気軽にスポーツに親しめる機会と場の提供
- まちの価値を高める土地区画整理事業*の促進
- 大規模イベントを契機とした重点地区などでの景観改善の促進

秩父地域

秩父市、横瀬町、皆野町、長瀬町、小鹿野町

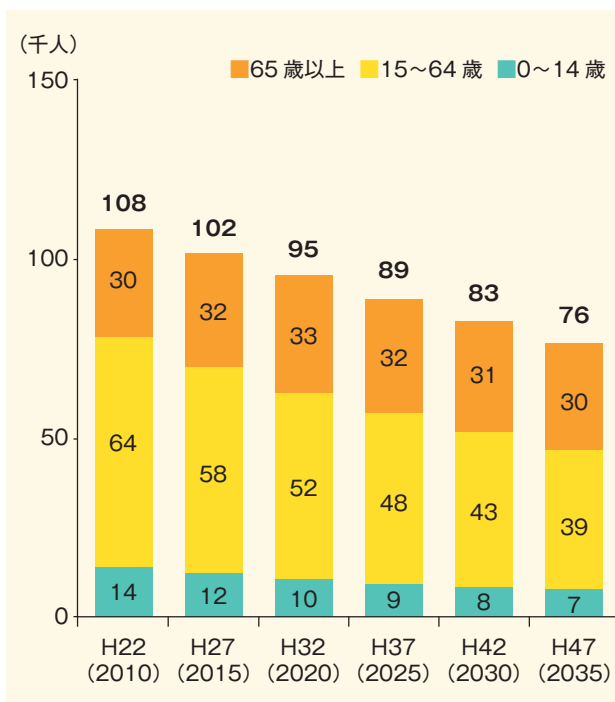
人口(県人口に占める割合)	101,624人 (1.4%)
面積(県面積に占める割合)	892.62km ² (23.5%)
人口密度	113.8人 / km ²

〔国勢調査(平成27年)〕(総務省)



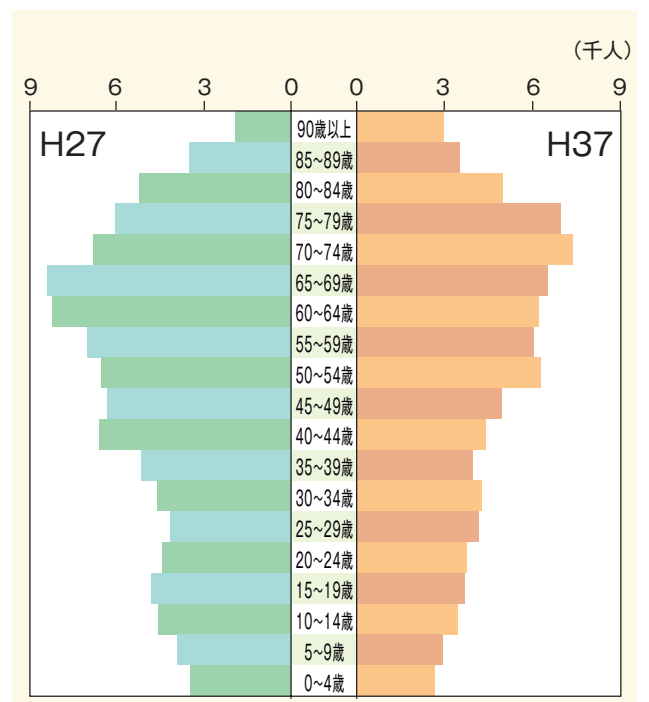
ユネスコ無形文化遺産 秩父夜祭(秩父市)

将来人口推計グラフ



「日本の地域別将来推計人口」(国立社会保障・人口問題研究所)

人口ピラミッドグラフ



「日本の地域別将来推計人口」(国立社会保障・人口問題研究所)



地域の概要

県の北西部、東京都心から70~100km圏に位置しています。甲武信ヶ岳、両神山などの山々に囲まれ、地域の8割を森林が占めるなど緑豊かな自然環境が残り、長瀬に代表される優れた景観に恵まれた地域です。

古くから養蚕、絹織物など多彩な生産が行われ、物資の集散地として発展し、独自の習慣や風俗が育まれました。札所巡り、秩父夜祭のほか、秩父ミュージックパークやアニメゆかりの観光スポット、芝桜や秋の紅葉など多彩な観光資源に恵まれています。

明治以降、交通網の整備に伴い地域内外との交流が活発となり、セメント産業をはじめ、繊維、林業などが盛んになりました。近年は産業構造の変化に伴い、金属製品、食料品などの産業のウェイトが高まっています。また、中山間地域*の特性を生かし、そば、こんにゃく、きのこなどの農林産物の生産、観光と連携した果樹園など観光農林業も展開しています。

早くから高齢化や過疎化が進行する中、地域の住民が互いに支え合う全国に先駆けた共助の取組も根付いています。

鉄道は西武秩父線、秩父鉄道が通勤・通学の主要な交通手段となっており、道路は国道140号・299号が主要幹線道路となっています。

地域の現状と課題

人口は10万2千人(平成27年(2015年))で、県人口の1.4%を占めています。人口減少率(平成22年(2010年)~平成27年(2015年))は6.1%で、県内で最も高く、昭和50年(1975年)をピークに人口減少が続いています。

大学などへの通学に時間がかかることなどから、10歳代後半から20歳代前半の就学期世代の転出超過が多くなっています。若年世代を中心とした地域外への流出を抑え、転入・定着を促進するには、地域産業の活力を高めて魅力ある雇用を確保するとともに、若者の就職・自立や結婚・出産・子育ての支援を進める必要があります。

合計特殊出生率は1.26(平成26年(2014年))で、県内でほぼ中位の水準にあります。

高齢化率は27.9%で、県内で最も高齢化率が高くなっています。一方、今後10年間の75歳以上の後期高齢者数の伸びは緩やかになると見込まれます。県内の他の地域に見られるような後期高齢者の急増に伴う医療・介護需要の増大は見込まれないものの、人口減少と高齢化が進む中で地域社会の活力を維持し、経済活動や日常生活を支えていくことが課題となっています。

平成23年(2011年)には長瀬の宝登山神社がミシュラン・グリーンガイド・ジャポンで一つ星を獲得し、秩父地域の1市4町をエリアとする「ジオパーク秩父」が日本ジオパークに認定されました。世界に誇る地域資源を生かして宿泊を伴う観光客を拡大し、地域を活性化することが課題となっています。



羊山公園 芝桜(秩父市)

地域づくりの方向性

主に若年世代を対象とした魅力ある雇用の場の創出や、企業と若者などとの丁寧なマッチングにより、地域で働く人材を確保します。さらに、医療や教育などの不安を解消し、安心して出産子育てができる環境整備を進めます。

高齢者が日常生活に不安や不便を感じることなく健康で生き生きと活躍できるよう、地域全体で高齢者の日常生活を支えとともに誰もが快適で暮らしやすいまちづくりを進めます。

高齢者が住み慣れた地域で安心して暮らせるよう、医療、介護、介護予防、生活支援、住まいを切れ目なく提供できる体制づくりを支援します。

地域の特性を生かした健康づくりの取組や生活習慣病*予防対策を推進し、生涯にわたる健康の確保を図ります。

土砂災害や大雪災害などに備え、防災対策などを進めるとともに、企業、NPOなど多様な主体との連携や自助・共助の取組を強化します。

経営革新や技術開発などを目指す中小企業への支援や企業立地の促進により、地域産業を活性化していきます。

秩父地域にある多彩な観光資源に加え、いちごやぶどう、ブルーベリーなどの観光農業、そば打ちや秩父銘仙などの体験施設を活用し、回遊性のある広域観光ルートを開発し、宿泊を伴う観光を拡大します。羊山公園の芝桜、長瀬の岩畳や宝登山神社、地域の様々な祭りや地質学的資源など魅力ある地域情報を国内外に積極的に発信し、多様な主体と連携しながら、魅力ある観光地づくりを支援します。

きゅうりなどの野菜、ぶどうなどの果樹の生産拡大や、こんにゃくなどの特産農産物の生産振興を進めます。また、酪農などの畜産の生産性向上や、いちごやぶどうなどの観光農園の魅力向上を進めるなど、農業の収益性を高めます。

県産木材の生産コスト低減や供給体制の整備などにより、林業・木材産業の振興を図るとともに、県民参加の森づくりを進めます。また、野生動物による農林業への被害をなくすため、保護と管理の観点から適切な被害防止対策を推進します。

地域内外との交流の一層の活性化を図るため、円滑で安全な自動車交通を目指し、地域経済や生活を支える幹線道路を整備します。また、高齢者などが移動に不便や不安を感じることなく快適に暮らすことができるよう、公共交通網の維持を支援します。



岩畳（長瀬町）



観光農園



主な施設・交通網と基盤整備の状況

凡例

- 国道
- - - 国道(事業区間)
- 検討中の道路
- 鉄道
- 工業団地



秩父市、横瀨町、皆野町、長瀨町、小鹿野町

秩父地域

主な取組

1. 未来への希望を実現する分野

■誰もが健康で安心して暮らせる社会をつくる

- 高齡化の進展に対応した健康長寿埼玉プロジェクトなど地域の実情に応じた健康づくりの取組支援
- 医療・介護連携の促進などによる地域包括ケアシステム*の構築支援

2. 生活の安心を高める分野

■危機や災害に備える

- 土砂災害防止施設の整備や治山事業の実施
- 土砂災害警戒区域における警戒避難体制の構築

3. 人財の活躍を支える分野

■多彩な人財が活躍できる社会をつくる

- 就職を目指す若者、高齡者、女性及び障害者に対するきめ細かい支援



武甲山と横瀬町



秩父ミュージアパーク（秩父市・小鹿野町）



天空のポピー（皆野町）



尾ノ内溪谷の氷柱（小鹿野町）



4. 成長の活力をつくる分野

■埼玉の成長を生み出す産業を振興する

- 農産物の加工体験施設の整備支援や観光農園のPRなどグリーン・ツーリズム*の推進
- 魅力ある街並みを創出する道路の整備
- 観光や企業誘致などを促進する幹線道路の整備

■埼玉の農林業の成長産業化を支援する

- 野菜、果樹などの生産振興の支援
- 畜産の生産性向上の支援
- 特産農産物の生産振興
- 収益性の高い観光農業の振興
- 県産木材の生産コスト低減や供給体制の整備



秩父山ルビー

■埼玉の活力を高める社会基盤をつくる

- 幹線道路の未接続区間の解消（国道140号皆野秩父バイパスなど）
- 中山間地域*の生活を支える道路の整備
- 生活交通を支える路線バスの維持・確保

5. 豊かな環境をつくる分野

■豊かな自然と共生する社会をつくる

- 間伐や枝打ちなどによる適正な森林整備
- 市町などと連携した水辺空間の利活用の促進



高性能林業機械による木材の運搬

6. 魅力と誇りを高める分野

■県民が誇れる埼玉の魅力を高める

- 多様な機関・団体と連携した観光客誘致と回遊の促進、宿泊を伴う観光ルートづくり
- 宿泊を伴う観光客、外国人観光客の来訪促進と受入体制の整備

■支え合いで魅力ある地域社会をつくる

- 農山村体験などによる都市住民との交流拡大
- 移住した中高年が地域の中で生涯にわたって活躍できるまちづくりへの支援
- 定住促進の取組強化

